

令和 5 年度 前期 授業評価報告書	氏名	玉島 健二
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

①「初年次セミナー」
 学科・コースの担当者及び事務局教務課等の協力のお陰で円滑な運営ができた。なお、15回の授業構成としては、「学科横断的内容」(4回分)、「基礎学力確認テスト」(3回分)をはじめ、「ガイダンス」、「キャリア」、「人権」等のテーマで実施できた。

②「長崎観光入門」
 令和3年度(1年目)に比べ、授業評価アンケート結果は改善した。長崎市担当者の講義は検討の余地があると思われる。また、学生の授業に臨む姿勢についても緊張感を与えるような仕組みを検討したい。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

①「初年次セミナー」
 前年度とほぼ同様の授業構成とするが、一部変更する。具体的には、「学科横断的内容」(3回分)、「基礎学力確認テスト」(3回分)、「18歳成人問題」、「長崎と平和」等を新規に加えることとする。実施できた。

②「長崎観光入門」
 前年度の反省を踏まえ、外部講師は「長崎さるく体験」のみとする。また、授業に臨む緊張感を与えるため、2回の臨時テストを加えるとともに、自ら調べてまとめる授業となるように工夫を加える。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

①「初年次セミナー」
 「学科横断的内容」は学科・コースで各1回の計3回とし、新規に「18歳成人の課題」、「長崎と平和」を加えた構成とする。また、令和5年度入学生より新しいシラバスにより実施するが、成績評価のルーブリックを示し、具体的に説明する。

②「長崎観光入門」
 「長崎さるく体験」は5月下旬の土曜日に実施する。また、新聞記事を活用した時事問題や公表された資料を使った街づくり等も実施する。さらに、15回のうち、2回の臨時テスト(各回30分程度)を実施し、成績評価の一部とする。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

①「初年次セミナー」
 15回のうち、前期に9回実施した。「18歳成人の問題」、「SDGs」、「長崎と平和」(いずれも外部講師)は学生に考えさせる内容であった。なお、一部であるが、安易に休む学生がおり、指導を加えた。

②「長崎観光入門」
 (1)成績評価の仕方を具体的に説明したこと、(2)2回の臨時試験を導入したこと、(3)自ら調べてまとめ、提出物として提出させたこと 等により、多くの学生が意欲的に取り組んだ。なお、5月下旬に実施した「長崎さるく体験」は天候にも恵まれ、学生の評価も概ね良かった。また、「授業外の学修時間」については、昨年度が約24.8分であったのに対し、今年度は約52.2分と倍増したことは大きな成果である。

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
長崎観光入門	22S	選択	22	77.2	1	4.5%	8	36.4%	11	50.0%	2	9.1%	0	0.0%	0	0.0%
長崎観光入門	22L	必修	17	86.0	4	23.5%	10	58.8%	3	17.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果							
科目名	対象学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度
長崎観光入門	22S	4.3	4.5	4.6	4.5	35.5分	4.5
長崎観光入門	22L	4.6	4.7	4.9	4.6	68.8分	4.7
初年次セミナー	23S	*	*	*	*	*	*
初年次セミナー	23L	*	*	*	*	*	*
初年次セミナー	23Y	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブ・ラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

①アクティブラーニング

- ・「初年次セミナー」：第7回の「SDGsを学ぶ」では、事前に課題を課し、授業終了後に提出させた。
- ・「長崎観光入門」：前半は講義形式が主であったが、後半は「長崎さるく体験」をはじめ、各自が調べてまとめ、最終的には提出物として提出する形を採用した。

②オフィスアワー

オフィスアワーと呼べるかどうかはわからないが、欠席がちな学生や提出物の未定者を呼び出し、指導した。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

①「初年次セミナー」

全体の15回が終了した時点で、次年度の授業構成や内容等を検討する。

②「長崎観光入門」

大きな改善は必要ないと判断するが、前半の講義内容について見直しを行い、内容を深められるように工夫する。

令和 5 年度 前期 授業評価報告書	氏名	太田 智子
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

前年度担当科目なし

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

子どもの食と栄養は、スライドを中心とした講義、離乳食体験や講演会を実施した。学生には講義内容をまとめたプリントを配布し、空欄を埋める形式とした。
 調理学は、スライドを中心とした講義と演習(計算問題)を行った。子どもの食と栄養と同様、学生には講義内容をまとめたプリントを配布し、空欄を埋める形式とした。
 調理学実習Ⅰは、調理実習および調理学実験、実技試験を行った。レシピは事前に配布し、予習しておくよう指示した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

子どもの食と栄養は、離乳食体験や講演会が知識の定着に繋がった。ただ、当初は幼児教育学科の学生にとって当該科目は専門領域外と考える者も少なくなかった。ポイントを絞って簡潔に説明することで保育における食の重要性を理解させ、当事者意識を持たせることが課題である。
 調理学は、理解度に大きな開きがみられた。十分に理解できている学生もいれば同じ問題に何度もつまづく学生もあり、まずは自ら学ぼうとする姿勢の構築が必要と考えられる。一方向授業になることが多かったため、学生の状況に合わせてつづスムーズな進行をするかが課題である。
 子どもの食と栄養と調理学に共通することであるが、学生への配布プリントは空欄を埋める形式にしたため、書き込んだだけで満足する学生も少なくなかった。内容の見直しとともに、プリントを配布するかどうか検討が必要である。
 調理学実習Ⅰは、全体的には調理の基礎が身についたように思う。評価が分かれたのは提出物の差であり、たびたび杜撰な内容のものがみられた。調理学実習Ⅰに限らず提出物の重要性やルールを理解させる必要がある。また、スタート時点で調理技術には大きな個人差があるため、学生の状況を把握し、より丁寧な個別指導をすることが課題である。
 全体的に中高で学び終えている内容が身につけていない学生が多い。その部分をどのように補い、底上げをしていくかを検討する必要があると考える。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
学外実習Ⅰ	22S	選択	23	86.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの食と栄養	22Y	選択	86	71.8	13	14.9%	12	13.8%	22	25.3%	37	42.5%	2	2.3%	1	1.1%
長崎食育学	23S	必修	34	77.2	3	8.8%	11	32.4%	13	38.2%	7	20.6%	0	0.0%	0	0.0%
調理学	23S	必修	34	64.6	2	5.9%	4	11.8%	6	17.6%	17	50.0%	5	14.7%	0	0.0%
調理学実習Ⅰ(調理実験を含む)	23S	必修	34	63.7	4	11.8%	7	20.6%	7	20.6%	11	32.4%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
学外実習総合演習	22S	*	*	*	*	*	*
学外実習Ⅰ	22S	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	22S	*	*	*	*	*	*
子どもの食と栄養	22Y	4.1	4.0	4.1	3.9	53.2分	3.9
長崎食育学	23S	*	*	*	*	*	*
調理学	23S	4.0	3.8	4.0	3.7	55.0分	3.9
調理学実習Ⅰ(調理実験を含む)	23S	4.3	4.1	4.4	4.3	60.8分	4.1
プレゼミナール	23S	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

なし

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

子どもの食と栄養は、食に対する意識を高め、保育現場における実践力を養うことを目標とする。今年度の同様に講演会や演習を実施し、さらにアクティブラーニングを取り入れることで学生が自主的に学ぶ機会を増やしたい。調理学は、一方向授業の割合が多くなるであろうが、可能な限り双方向授業を取り入れながらスムーズな進行ができるよう心がけていきたい。学生が自ら学ぶ姿勢を身につけ、実際の調理と関連付けて考える力をつけることを目標とする。

調理学実習Ⅰは、調理の基礎を身につけ、調理技術向上の意欲をもつ学生を増やすことを目標とする。丁寧に個別指導を行い、調理に苦手意識を持たないような対応を心がけたい。また、提出物の重要性を伝えていく。

令和 5 年度 前期 授業評価報告書	氏名	太田 美代
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

○「給食経営管理論」は、リアクションペーパーを活用することで、個別の対応を丁寧にすることができた。学生の満足度も前年度4.0から4.5に上がった。今後は、記述内容が浅い学生に対する働きかけを工夫したい。
 ○「栄養教育指導論実習Ⅱ」は、C評価者が多い。筆記試験の結果が良くなかったため、次年度は試験対策も考慮する。学内実習では、栄養指導実習を自信をもって実施することができた。
 ○「給食経営管理論実習Ⅱ」の履修者の人数は少なかったが、意欲のある学生がほとんどだったため、十分な成果を挙げる事ができた。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

○専門職としての基礎的な力を養うため、栄養士実力認定試験の短大平均を上回る者60%以上、及びA認定50%以上を目指す。
 ○1年生のスタートアップセミナーを定期開催して基礎学力の充実を図る。2年生も「チャレンジタイム」として定期的に過去問にあたり調べ学習を勤めるとともにeラーニングシステムを導入し活用を図る。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

○1年生の授業ではスライドとワークシートを活用し、まとめて過去問にもあわせて知識の定着を図る。またリアクションペーパーを使って個別対応を行い、学習への意欲を喚起する。
 ○2年生は「チャレンジタイム」での修得度別グループ学習に加え、eラーニングを実施するための環境整備を行い、主体的な学習を促す。学力に関して心配な学生も多いので、可能な限り個別にきめ細かな対応で支援する。
 ○実習演習の授業においては、グループや個人での自己評価、グループ同士での相互評価を行う場面を設定し、認め、励ますことを通して学びに向かう主体的な態度を育成する。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

○「給食経営管理論」は、小テストへの取組が不十分な学生が多く、授業に向かう姿勢ができていない学生が見られた。昨年に比べS評価が少なくB評価が増えたので、実習科目で復習しながら授業を進めたい。
 ○「栄養教育指導論実習Ⅱ」は、昨年に比べC評価が減り、B評価が増えた。学生の学習意欲も4.2から4.5へ、理解度も4.1から4.3へアップした。
 ○「給食経営管理論実習Ⅱ」では、繰り返し実習を行うことで、衛生管理の基本や大量調理の配慮点が少しずつ身についてきており、学生自身もその手ごたえを感じているようである。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
栄養教育指導論実習Ⅱ	22S	選択	24	74.9	0	0.0%	5	20.8%	16	66.7%	3	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
給食経営管理論実習Ⅱ	22S	選択	20	86.0	8	40.0%	9	45.0%	3	15.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習Ⅰ	22S	選択	23	86.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
長崎食育学	23S	必修	34	77.2	3	8.8%	11	32.4%	13	38.2%	7	20.6%	0	0.0%	0	0.0%
給食経営管理論	23S	必修	34	75.7	5	14.7%	8	23.5%	11	32.4%	10	29.4%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
栄養教育指導論実習Ⅱ	22S	4.2	4.3	4.5	4.3	96.3分	4.4
給食経営管理論実習Ⅱ	22S	4.3	4.7	4.6	4.5	69.0分	4.6
学外実習総合演習	22S	*	*	*	*	*	*
学外実習Ⅰ	22S	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	22S	*	*	*	*	*	*
長崎食育学	23S	4.5	4.3	4.4	4.3	42.5分	4.4
給食経営管理論	23S	4.3	4.2	4.3	4.0	46.7分	4.2
プレゼミナール	23S	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

・実習系の科目については、計画的に実施することができた。講義を中心とする「給食経営管理論」についても「大量調理施設衛生管理マニュアル」に関する部分で一部学生に説明させる場面を作り、主体的に学習に臨む姿勢を促した。

・実習の最後にKJ法を応用して、すべての学生が自ら「何を学んだか」「どんなことが身についたか」を考える機会を設けた。グループでまとめて発表することで、反省点や授業の成果を共有することができた。

・定期試験で苦慮する学生には、個別に指導対応を行った。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・「給食経営管理論」については、予習、復習を促し、授業の初めに前時の振り返りを短時間行う。小テストを確認テストとして回数を増やし、範囲を狭くして取り組む。

・「栄養教育指導論実習Ⅱ」については、指導媒体の見本を示しながら、文字の大きさやイラスト、図表の示し方など具体的に学んでからグループワークを行うようにする。

令和 5 年度 前期 授業評価報告書	氏名	桑原 真美
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

令和4年度の授業評価アンケートは令和3年度と比較して全体的に良い評価となった。授業外学習時間も前年度より増加している。食品衛生学と栄養学Ⅰの成績(平均点)もやや上昇しており、S評価、A評価の学生の割合が多くなっていることが要因であると考えられる。食品学基礎実験に関しては、レポート点と出席点が成績の7割を占めており、今年度はレポートを期限までに提出しない学生や、レポートの内容に改善すべき点が多くある学生、欠席の多い学生も見られたため、平均点が低くなったと考えられる。今年度の授業評価アンケートが改善された要因としてもう一つ考えられるのが、スタートアップセミナーの実施である。スタートアップセミナーは基礎学力の向上と学習習慣の定着を目的として実施している。基礎学力の向上は半期では難しい課題であったが、日頃から学習に対して意欲をもって取り組む学生が増えたという結果がこの授業評価アンケートに表れていると考えられる。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

今年度は1年生の人数が多いため、学生の授業内容の理解度の把握をより強化したい。また、よりきめ細やかな指導を行い、学生の理解度の向上に努めたい。

3. 今年度の活動内容・方法 (D0: 実行)

授業において練習問題に取り組む時間を多く設ける。これまでどおり、質問用紙代わりの出席カードを配布し、学生が質問をしやすい環境整備を行う。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

今年度、単独で担当した科目については、全体的に授業評価アンケートの結果が昨年度より低い傾向が見られた。昨年度と比較すると内容やレベルについてはほぼ同じであるが、教員の教え方が0.1~0.3点減、学習意欲が0.1~0.5点減、理解度はいずれの科目も0.4点減、全体的な満足度も0.2~0.3点減であった。また、成績評価SおよびAの学生の合計は、食品学基礎実験および食品衛生学は昨年度とほぼ同じ割合であるものの、栄養学Ⅰは24ポイント減となった。今年度の1年生は、各授業やスタートアップセミナーの様子をみても、生物・化学系の科目が苦手な学生が多数見受けられることから、基礎学力の向上により一層力を入れる必要がある。また、学習意欲がやや低いことも影響している為、学生のやる気を引き出す方法を模索していかねばならないと考える。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
学外実習Ⅰ	22S	選択	23	75.7	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
長崎食育学	23S	必修	34	77.2	3	8.8%	11	32.4%	13	38.2%	7	20.6%	0	0.0%	0	0.0%
食品学基礎実験	23S	選択	34	80.8	7	20.6%	12	35.3%	9	26.5%	6	17.6%	0	0.0%	0	0.0%
食品衛生学	23S	必修	34	78.9	7	20.6%	9	26.5%	10	29.4%	8	23.5%	0	0.0%	0	0.0%
栄養学Ⅰ(基礎栄養学)	23S	必修	34	66.5	1	2.9%	6	17.1%	4	11.4%	23	65.7%	1	2.9%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
学外実習総合演習	22S	*	*	*	*	*	*
学外実習Ⅰ	22S	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	22S	*	*	*	*	*	*
長崎食育学	23S	4.5	4.3	4.4	4.3	42.5分	4.4
食品学基礎実験	23S	4.5	4.5	4.4	4.1	99.2分	4.2
食品衛生学	23S	4.4	4.5	4.3	4.2	60.8分	4.4
栄養学Ⅰ(基礎栄養学)	23S	4.5	4.5	4.4	4.0	55.1分	4.3
プレゼミナール	23S	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

食品学基礎実験においてグループ活動を実施。
オフィスアワーは時間を設けていたが、その時間に訪問した学生はいなかった。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

学生の基礎学力の低下が課題であり、更なる対策を講じなくてはならない。また、学生が意欲的に取り組めるような授業内容を考えることが必須である。次年度は、e-ラーニングシステム(Webアプリ)を用いた授業を計画・実施し、その効果を検証する。

令和 5 年度 前期 授業評価報告書	氏名	古賀 克彦
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

① 昨年度と比較すると平均点は上昇し、再試験受験者は減少した。ただ学力に問題のある学生は一定数存在しており、これらの学生指導に苦慮した。(栄養教育指導論Ⅰ)

② 昨年度と比較すると平均点が低下した。今後は学習に取り組まない学生への指導が課題。(臨床栄養学Ⅱ)

③ 今年度はレポート提出状況が悪い学生が多く存在した。レポートへ取り組む姿勢は個人差が存在。(臨床栄養学実習)

④ 新型コロナウイルスの影響の為、学外での実習は中止し、学内での指導に変更した。(学外実習Ⅰ)

⑤ 今年度は新型コロナウイルスの影響を受けた昨年度違い、計画通りに開講することが出来た。今年度から講師に加わった長崎県水産部に関しては学外でのイベント参加に繋がった(西九州新幹線開業イベント)。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

① 成績下位グループを底上げし、再試験受験者の減少。(栄養教育指導論Ⅰ)

② 成績下位グループを底上げし、再試験受験者の減少。(臨床栄養学Ⅱ)

③ アクティブラーニングの導入、レポート提出状況改善(臨床栄養学実習)

④ 実習先評価の向上。学内実施の場合は内容の充実。(学外実習Ⅰ)

⑤ 一部授業内容の見直し(講師の変更等を含めて)(長崎食育学)

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

① 重要な事項や栄養士実力認定試験に頻出な部分をまとめた教材を作成・配布し、試験前に解説を実施。(栄養教育指導論Ⅰ)

② 重要な事項や栄養士実力認定試験に頻出な部分をまとめた教材を作成・配布し、試験前に解説を実施。(臨床栄養学Ⅱ)

③ 献立の展開の授業4回分にアクティブラーニングを導入。レポートの提出率改善に関しては未提出者に積極的な呼びかけを実施。(臨床栄養学実習)

④ 学外実習総合演習における各種指導の強化と個別指導を実施。新型コロナの影響で一部学内で実施した学外実習Ⅰでは、外部(シダックス)での大量調理の実習を実施。(学外実習Ⅰ)

⑤ 一部授業内容の見直し(長崎県水産部)と、外部講師の調理実習を新たに導入(長崎食育学)。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

① 昨年度から授業内容の改善を行ったが、成績下位グループの人数はおよび再試験受験者は減少せず、逆に増加した。(栄養教育指導論Ⅰ)

② 昨年度から授業内容の改善を行ったが、成績下位グループの人数はおよび再試験受験者は減少しなかった。(臨床栄養学Ⅱ)

③ アクティブラーニングの影響かは不明だが授業の満足度は増加した。提出物に関しては1名を除き改善した。(臨床栄養学実習)

④ 新型コロナの影響もあり7月実施予定の学外実習を8月中旬から9月末にかけて実施。その為実習先の評価は9月末時点で不明。(学外実習Ⅰ)

⑤ 一部外部講師の見直しと、自身担当の講義(3回)の見直しを行い、授業の満足度は向上した。(長崎食育学)。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
臨床栄養学Ⅱ(食事療法の原理)	22S	選択	24	71.4	4	16.7%	5	20.8%	2	8.3%	12	50.0%	1	4.2%	0	0.0%
臨床栄養学実習	22S	選択	24	78.0	4	16.7%	8	33.3%	8	33.3%	4	16.7%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習Ⅰ	22S	選択	23	78.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
長崎食育学	23S	必修	34	77.2	3	8.8%	11	32.4%	13	38.2%	7	20.6%	0	0.0%	0	0.0%
栄養教育指導論Ⅰ	23S	必修	34	71.1	4	11.8%	6	17.6%	7	20.6%	17	50.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果							
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
臨床栄養学Ⅱ(食事療法の原理)	22S	4.2	4.5	4.4	4.2	57.5分	4.2
臨床栄養学実習	22S	4.2	4.4	4.5	4.4	61.3分	4.3
学外実習総合演習	22S	*	*	*	*	*	*
学外実習Ⅰ	22S	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	22S	*	*	*	*	*	*

長崎食育学	23S	4.5	4.3	4.4	4.3	42.5分	4.4
栄養教育指導論Ⅰ	23S	4.2	4.0	4.2	4.1	30.8分	4.1
プレゼミナール	23S	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

今年度より、臨床栄養学実習における献立の展開の授業（4回分）、および学外実習総合演習における献立作成（2回分）においてアクティブラーニングを導入した。
 オフィスアワーに関しては随時実施しており、学外実習の課題に関する相談を中心に2年生の相談が多く見られた。1年生に関してはあまり相談は無かった。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

- ① 成績下位グループを底上げし、再試験受験者の減少。（栄養教育指導論Ⅰ）
- ② 成績下位グループを底上げし、再試験受験者の減少。（臨床栄養学Ⅱ）
- ③ アクティブラーニングの更なる、レポート提出状況改善（臨床栄養学実習）
- ④ 実習先評価の向上。学内実施の場合は内容の充実。（学外実習Ⅰ）
- ⑤ 一部授業内容の見直し（講師の変更等を含めて）（長崎食育学）

令和 5 年度 前期 授業評価報告書	氏名	江頭 万里子
--------------------	----	--------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

学生アンケートの全ての項目が、4.4以上であることから、概ね問題は無かったと考える。

(1) 秘書実務2では、事前学習の動画を複数回視聴し、対面授業前に自主的に演習を重ねた学生もあり、反転授業が主体的な学びに繋がったものと思われる。今回は、1回のみの実施だったので、今後は回数を増やすことも検討が必要。学生アンケートは、教員の教え方、学生の学習意欲、学生の理解度のポイントが昨年度より上がっていた。

(2) 秘書概論では、教員の教え方、全体的満足度が共に4.9と高得点であった。

(3) マナー学では、学生アンケートの結果が、前年度の結果に対して項目別に0.4~0.7上がっており、5項目の平均が4.58となった。成績評価ではC評価が2人で、昨年から8人減少した。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

目標: 学生が主体的に授業に参加する

改善計画: 授業内容に合わせ、可能な限り、アクティブラーニングを実施する。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

(1) 秘書実務2では、初回を除き全ての単元で反転授業を行った。

(2) 秘書概論では、秘書検定の問題を課題として活用し、秘書の理解を深めた。

(3) マナー学では、日頃からマナーを心掛けるようにするために、バスマナーに重点を置いて、毎週各自にマナー改善目標を設定させ、出席確認時に振り返りを行わせた。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生のアンケートの平均点は、昨年度に比べ少し悪かったが、全ての項目が、4以上だったので、特に問題は無かったと思われる。

(1) 秘書実務2については、教員の教え方が4.9、その他は全て4.8で高評価だったので、反転授業に好感を持ったものと思われる。

(2) 前期に近隣からのバスマナーに関する苦情が無かったことは、マナー学における取り組みも貢献しているものとする。

(3) 秘書概論では、秘書に興味のない学生が意欲的に授業を受けられるように、授業法を今以上に工夫が必要。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
秘書実務2	22L	必修	17	86.8	6	35.3%	10	58.8%	1	5.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	22L	必修	17	85.3	12	70.6%	2	11.8%	3	17.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
マナー学	23S	必修	34	78.7	5	14.7%	11	32.4%	13	38.2%	5	14.7%	0	0.0%	0	0.0%
秘書概論	23L	必修	20	83.6	4	20.0%	11	55.0%	4	20.0%	1	5.0%	0	0.0%	0	0.0%
プレゼミナール	23L	必修	20	90.5	13	65.0%	5	25.0%	2	10.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
マナー学	23Y	必修	72	82.3	25	32.9%	31	40.8%	12	15.8%	6	7.9%	1	1.3%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
秘書実務2	22L	4.8	4.9	4.8	4.8	100.6分	4.8
キャリアアップセミナー2	22L	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	22L	*	*	*	*	*	*
マナー学	23S	4.4	4.2	4.3	4.2	32.5分	4.0
秘書概論	23L	4.4	4.3	4.5	4.2	82.5分	4.1
キャリアアップセミナー1	23L	*	*	*	*	*	*
フィールドワーク	23L	*	*	*	*	*	*

インターンシップ1	23L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ2	23L	*	*	*	*	*	*
プレゼミナール	23L	*	*	*	*	*	*
マナー学	23Y	4.4	4.3	4.4	4.3	35.0分	4.2

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

反転授業・ロールプレイング・ディスカッション等を用いたアクティブラーニングを行った。
基本的に在室時は訪問可としているので、オフィスアワー以外の時間に訪問を受けた。内容は、就職に関するこ
と、検定試験に関することだった。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

目標：授業の満足度を上げる。

改善計画：秘書実務2では、次年度も反転授業を継続する。
マナー学では、資料を作り直し、より分かりやすい形にする。

令和 5 年度 前期 授業評価報告書					氏名		濱口 なぎさ									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<ul style="list-style-type: none"> ・演習系科目では、適切な課題設定と提出物のチェックとフォローを行った。 ・講義系科目では、スライドやプリントを活用し、さらに単元ごとのまとめを行うことで知識の定着を図った。 ・学生によるアンケート結果では内容やレベルの評価が高い傾向にあるが、学習内容自体のレベルが低いために学生の評価が高くないよう見直ししながらレベルアップを図る。 																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<ul style="list-style-type: none"> ・演習系科目では、丁寧な提出物チェックと学生の理解度把握に努める。 ・講義系科目では、双方向の授業になるよう心掛け、学生の理解度を把握するためにも意見収集の方法を工夫する。 																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス文書作成1は、課題の提示方法を工夫し、タッチタイピング技能の習得を早め、ビジネス文書作成の知識と技能習得に十分な時間をかける。 ・ビジネス文書作成3は、新しい教材を活用して応用的な文書作成の知識と技能習得を行い、検定上位級へのチャレンジ意欲を持たせる。 ・情報検索と医療管理学については、教科書を補足するためのスライドを見直し、単元ごとにまとめを行い、学生の知識が深まるよう工夫をする。 ・情報処理演習は、教科書だけでなく独自の課題を出して履修者の興味関心を引く。 ・医事コンピュータは、診療報酬に関する知識の定着を図るとともに、具体的な例題を元に実践的な技能習得を図る。 																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>成績分布、学生によるアンケート結果のデータから、授業内容や教え方については大きな問題はなかったと読み取れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習系科目は、提出物の内容に関する全体的なフィードバックは適切な時期に実施できたが、個別のフィードバックは十分に行うことができなかった。1年生のタッチタイピングの技能習得は、確認テストの期日を明確に示したことにより、予定よりも早く習得できた。 ・医事コンピュータは履修者1名であったため、理解度を確認しながらきめ細かい指導を行うことができた。 ・講義系科目については、アクティブラーニング的手法を用いることが十分できたとは言えず、次年度はグループディスカッションの導入を検討したい。 ・情報処理演習は、履修者が多く授業内容に興味関心が薄い学生が複数いた。コースが異なるため、授業以外の時間に指導をすることが難しく、提出物未提出の学生へのフォローができなかったためか、初めて欠点者が複数発生した。 																
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ビジネス文書作成3	22L	必修	17	88.1	8	47.1%	7	41.2%	2	11.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
医事コンピュータ	22L	選択	1	90.0	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
病院実習	22L	選択	0	90.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
インターンシップ3	22L	選択	1	90.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	22L	必修	17	85.3	12	70.6%	2	11.8%	3	17.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
情報処理演習	23S	必修	34	71.4	4	11.8%	4	11.8%	8	23.5%	17	50.0%	1	2.9%	0	0.0%
ビジネス文書作成1	23L	必修	20	86.2	5	25.0%	13	65.0%	2	10.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
情報検索	23L	必修	20	82.4	4	20.0%	7	35.0%	9	45.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
医療管理学	23L	選択	16	77.1	4	23.5%	5	29.4%	3	17.6%	5	29.4%	0	0.0%	0	0.0%
プレゼミナール	23L	必修	20	90.5	13	65.0%	5	25.0%	2	10.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
ビジネス文書作成3	22L	4.9	4.9	4.9	4.9	54.0分	4.9									
医事コンピュータ	22L	5.0	5.0	5.0	5.0	90.0分	5.0									
キャリアアップセミナー2	22L	*	*	*	*	*	*									

フィールドワーク	22L	*	*	*	*	*	*
病院実習	22L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ3	22L	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	22L	*	*	*	*	*	*
情報処理演習	23S	4.2	4.0	4.3	4.1	23.3分	3.9
ビジネス文書作成1	23L	4.4	4.6	4.9	4.6	55.5分	4.6
情報検索	23L	4.5	4.7	4.6	4.6	64.7分	4.5
医療管理学	23L	4.4	4.3	4.6	4.1	75.0分	4.4
キャリアアップセミナー1	23L	*	*	*	*	*	*
フィールドワーク	23L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ1	23L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ2	23L	*	*	*	*	*	*
プレゼミナール	23L	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

- ・情報検索では、根拠となるデータを元にしたレポート作成を行ったのち、その概要を発表させた。要点を要領よくまとめて発表する経験として効果的だった。
- ・医療管理学では単元ごとのまとめの際、学生と意見交換を行った。
- ・オフィスアワー以外の空き時間で、欠席した学生のフォローや就活指導や面接練習、個人的な相談などに対応した。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

- ・演習系科目については、一定レベル以上の知識と技能の修得を目指していることから、学生一人一人に対する適切できめ細かいフォローとフィードバックを心がける。
- ・講義系科目については、教員による一方的な説明とならないよう、グループディスカッション等学生と意見交換ができる機会を増やす。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

1) 前年度前期の1年生の臨床心理学では、専門用語の説明から名称を選択する語群問題は殆ど正解していたが、○×問題や用語を説明する記述問題はあまり出来ていなかった。
 2) 前年度前期の1年生のビジネスデータ活用1では、エクセルのグラフ問題は正解していたが、関数問題やピボットテーブルでは学生の理解度に二極分化の傾向が強く見られた。
 3) 前年度前期の2年生のビジネスデータ活用3では、エクセルの特殊グラフのポートフォリオやガントチャート、Zチャート、パレート図は、一部の学生を除いてほぼ全員が作成できた。
 4) 前年度前期の1年生のプレゼミナルでは、ワークライフバランスをテーマにして発表したが、殆どの学生が似たような内容になり、顕著な独自性や有用性があまり見られなかった。
 5) 前年度前期の2年生のゼミナルでは、長崎県をアピールするPR動画の制作に取り組んだが、観光案内やお店の紹介が多く、社会問題等の地域貢献的な動画が少なかった。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

1) 今年度の臨床心理学では、心の病気の症状や原因、対処法、治療法、予防法について、学生が十分理解した上で、他者に説明できるようにしたい。
 2) 今年度のビジネスデータ活用1では、特に関数とピボットテーブルの働きと操作法について、学生が十分理解した上で、自由に操作できるようにしたい。
 3) 今年度のビジネスデータ活用3では、各種の特殊グラフについて、学生が十分理解した上で、できるだけテキストを参照せずに作成できるようにしたい。
 4) 今年度のプレゼミナルでは、近年の社会問題に対して、地域に貢献できるようなオリジナリティとインパクトのあるPR動画が作成できるようにしたい。
 5) 今年度のゼミナルでは、商品開発を通して、AIよりも人間が得意とする人間性とデザイン思考を活かした商品開発の手法を修得できるようにしたい。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

1) 臨床心理学では、心の構造と機能、心の病気の症状や原因、対処法、治療法、予防法について、具体的な事例を示した動画教材を用いて、わかりやすく丁寧に説明した。
 2) ビジネスデータ活用1では、授業の前半はテキストに沿ってエクセルの機能と操作方法を説明し、授業の後半では独力で練習問題に取り組む授業構成として理解度を高めた。
 3) ビジネスデータ活用3では、できるだけ自分で考えて各種の特殊グラフを作成する時間を多く取り、短時間で効率よく資料作成ができるような授業構成として理解度を高めた。
 4) プレゼミナルでは、単なる娯楽やストレス解消のような自己満足の人生設計ではなく、社会問題に対して地域に貢献できるようなPR動画の作成について助言した。
 5) ゼミナルでは、魅力的でインパクトのある動画にするために、構成、アングル、音声と文字の説明、BGM、ストーリー性、転換の発送に工夫をするように助言した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

1) 臨床心理学のアンケートは4.8から4.9で高評価だった。平均点は84.5点で、SとAの割合は82.4%と高得点だった。記述問題の理解力や構成力、表現力を強化する必要がある。
 2) ビジネスデータ活用1のアンケートは3.9から4.4で高評価だった。平均点は85.8点で、SとAの割合は70.0%だった。説明の理解力、関数、応用力が低い学生の支援が必要である。
 3) ビジネスデータ活用3のアンケートは4.5から4.8で高評価だった。平均点は85.6点で、SとAの割合は82.3%と高得点だった。目標の具現化、根拠に基づく論理的思考を磨く必要あり。
 4) プレゼミナルでは、平均点は90.5点で、SとAの割合は90.0%と高得点だった。
 5) ゼミナルでは、平均点は85.3点で、SとAの割合は82.4%と高得点だった。

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ビジネスデータ活用3	22L	必修	17	85.6	9	52.9%	5	29.4%	1	5.9%	2	11.8%	0	0.0%	0	0.0%
臨床心理学	22L	選択	17	84.5	7	41.2%	7	41.2%	1	5.9%	2	11.8%	0	0.0%	0	0.0%
病院実習	22L	選択	0	84.5	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
インターンシップ3	22L	選択	1	84.5	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナル	22L	必修	17	85.3	12	70.6%	2	11.8%	3	17.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ビジネスデータ活用1	23L	必修	20	85.8	10	50.0%	4	20.0%	3	15.0%	3	15.0%	0	0.0%	0	0.0%
プレゼミナル	23L	必修	20	90.5	13	65.0%	5	25.0%	2	10.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
ビジネスデータ活用3	22L	4.5	4.6	4.8	4.7	67.5分	4.6
臨床心理学	22L	4.9	4.8	4.9	4.9	75.0分	4.9
キャリアアップセミナー2	22L	*	*	*	*	*	*
フィールドワーク	22L	*	*	*	*	*	*
病院実習	22L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ3	22L	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	22L	*	*	*	*	*	*
ビジネスデータ活用1	23L	4.1	3.9	4.4	4.1	64.5分	4.3
キャリアアップセミナー1	23L	*	*	*	*	*	*
フィールドワーク	23L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ1	23L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ2	23L	*	*	*	*	*	*
プレゼミナール	23L	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

- 1) 臨床心理学では、自由研究として、心理学の専門用語に関する文献研究を行い、その日常的な活用法などについてプレゼンテーションをしている。
- 2) ビジネスデータ活用1では、自由研究として、実際のデータを用いて各種のグラフを作成し、グラフの解釈についてプレゼンテーションをしている。
- 3) ビジネスデータ活用3では、自由研究として、実際のデータを用いて各種のグラフを作成し、グラフの解釈についてプレゼンテーションをしている。
- 4) プレゼミナールでは、就職の自己PRや入社後の抱負について、グループディスカッションや中間報告会、プレゼンテーション大会を行っている。
- 5) ゼミナールでは、地域社会に貢献するPR動画の作成について、グループディスカッションや中間報告会、プレゼンテーション大会を行っている。
- 6) オフィスアワーに訪問する学生はいないが、それ以外の時間にパソコンの授業に関する質問が週に数件あるため、パソコンを用いて操作方法を説明している。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

- 1) 次年度の臨床心理学では、授業で学んだ臨床心理学に関する心の機能や法則を、日常生活での悩みや意思決定に活用できるように理解力と応用力を高めていきたい。
- 2) 次年度のビジネスデータ活用1では、エクセルを用いて基本的なアンケートの集計を行い、実用的で利便性と有用性の高い図表の作成ができるように支援していきたい。
- 3) 次年度のビジネスデータ活用3では、エクセルを用いて基本的なアンケートの集計を行い、実用的で利便性と有用性の高い図表の作成ができるように支援していきたい。
- 4) 次年度のプレゼミナールでは、毎回アクティブラーニングを用いて、学習意欲や問題解決力の向上を図り、自己PRと自己主張、今後の抱負と意思決定ができるようにしたい。
- 5) 次年度のゼミナールでは、自分や社会の日常的・将来的な問題の発見と解決について、根拠に基づいて論理的に思考し、説得力と貢献力のある人材を育成していきたい。

令和 5 年度 前期 授業評価報告書	氏名	森 弘行
--------------------	----	------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

・統計処理の授業外学習時間は予想に反して前年度の56分から34分に減少した。
 ・情報リテラシーではアンケートの評価が前年度より大きく改善された。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

・情報リテラシーの内容を見直し、時代に合った新しい話題を項目を取り入れる。
 ・統計処理の理解度を上げる。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

・情報リテラシーはできるだけ教科書に沿って授業を進行する。
 ・統計処理の練習問題については授業内に事前に解説をし、授業外の課題を増やした。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に
--

・情報リテラシーでは、新しい項目が増えた結果、それぞれを取り扱う時間が短くなり、満足度の低下につながったと思われる。
 ・統計処理の満足度は前年度より改善したものの、理解度は十分とは言えない。
 ・情報処理演習では初めて単位未修得者が出た。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
プログラミング	22L	選択	4	72.5	1	25.0%	1	25.0%	1	25.0%	0	0.0%	1	25.0%	0	0.0%
統計処理	22L	選択	8	67.1	0	0.0%	0	0.0%	4	50.0%	3	37.5%	1	12.5%	0	0.0%
病院実習	22L	選択	0	67.1	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
インターンシップ3	22L	選択	1	67.1	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	22L	必修	17	85.3	12	70.6%	2	11.8%	3	17.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
情報処理演習	23S	必修	34	71.4	4	11.8%	4	11.8%	8	23.5%	17	50.0%	1	2.9%	0	0.0%
情報リテラシー	23L	必修	20	72.6	3	15.0%	2	10.0%	7	35.0%	8	40.0%	0	0.0%	0	0.0%
プレゼミナール	23L	必修	20	90.5	13	65.0%	5	25.0%	2	10.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果							
-------------------	--	--	--	--	--	--	--

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
プログラミング	22L	5.0	5.0	4.5	4.0	75.0分	5.0
統計処理	22L	4.0	4.0	4.4	3.9	55.7分	3.9
キャリアアップセミナー2	22L	*	*	*	*	*	*
フィールドワーク	22L	*	*	*	*	*	*
介護・救急法	22L	*	*	*	*	*	*
病院実習	22L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ3	22L	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	22L	*	*	*	*	*	*
情報処理演習	23S	4.2	4.0	4.3	4.1	23.3分	3.9
情報リテラシー	23L	3.6	3.6	4.0	3.3	30.0分	3.4

キャリアアップセミナー1	23L	*	*	*	*	*	*
フィールドワーク	23L	*	*	*	*	*	*
介護・救急法	23L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ1	23L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ2	23L	*	*	*	*	*	*
プレゼминаール	23L	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

- ・指定のオフィスアワーを利用する学生はいない。
- ・質問やPCトラブル等については随時対応。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

- ・「統計処理」は次年度より「データサイエンス基礎」として全学対象となるため、授業内容の大幅見直しを行う予定。

令和 5 年度 前期 授業評価報告書	氏名	荒木 正平
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

1. アンケートの結果のうち、ほぼ対面授業に戻すことができた科目については満足度がやや改善されているようである。新たに担当した2年生の演習系の授業についても、コロナ対策をとりつつのグループ演習を実施した。満足度といった点では大きな問題はないが、指導する側の印象として、学生グループ活動のやりづらはやはり残っているようである。今後、個人演習の実施についてもバランスを見ながら取り入れていきたい。ゼミナール活動については、全体としては学生の意欲が高く取り組んでくれたが、一部ミスマッチの学生の意欲・満足度が気になるところである。ゼミの意義を学生が実感できるような運営を引き続き心掛けたい。

2. 実習・その他授業との連動を意識して取り組むことができた。前述したような視覚化の工夫をより進め、さらに学生が理解しやすい説明を心掛け、実習に集中して取り組める環境を準備していくことが今後も課題となる。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

1. 担当する授業の内容の充実と、学習成果の向上 (状況に応じた授業形態の変更も想定する)
 学習習慣の定着を図り、基礎的知識の定着を目指す。今期実施できた対面授業が、また大幅に制限される状況も想定し、個別演習の充実を図る。学生の過剰な負担にならないよう工夫しながら、様々な演習方法を柔軟に採用し、充実した授業を実施する。

2. 実習指導体制の確認と内容の充実
 ①実習指導授業の見直し (保育実習Ⅲおよび保育実習指導Ⅲ)を進める。その他の授業においても、実習や保育現場での支援を意識した授業のあり方の工夫と、実習施設との密な連携 (新型コロナウイルス対応体制の確認も含む)、教員間の協力・情報共有体制の強化、を行う。
 ②学生ごとに異なる能力・意欲・希望に対応できるよう、徹底した個別支援・指導の実施を継続する。

3. 今年度の活動内容・方法 (D0: 実行)

1. 感染対応を行いながら、全面的に対面授業とした。教科書・レジュメでのまとめと基礎的知識の確認・定着を図りつつ、テーマに関する映像資料も用いる形で実施した。グループ演習についても、今期は実施できた。

2. 授業と実習の関連については、今年度も引き続き、関係教員と連携しながら教材の改善・授業内容の視覚化を進めた。演習についての制限もほぼなく実施できているが、実習に臨むにあたっての施設からの感染対策に関する要望は、数は減ったものの継続しており、都度対応を要している。学生毎の個別支援については、引き続き徹底して行っている。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

1. 今年度アンケートの結果をみると、全体的な満足度等については前年度と大きな変わりはない。「特別な教育的ニーズの理解とその支援」の授業については、授業時間が半期のみとなったが、講義と併せてグループ演習までを実施した。満足度といった点では大きな問題はないが、やや詰め込みすぎた印象はあり、今後は全体のバランスを見ながら調整を進めたい。ゼミナール活動については、全体としては学生の意欲が高く取り組んでくれたが、一部の学生については、やはり意欲・満足度が気になるところである。引き続き個別での対応を心掛けたい。

2. 実習・その他授業との連動を意識して取り組むことができた。主担当ではない科目との連携・情報共有を進め、学生がより実習に集中して取り組める環境を準備していく必要がある。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
特別な教育的ニーズの理解とその支援	22Y	必修	86	81.0	22	25.3%	32	36.8%	24	27.6%	8	9.2%	0	0.0%	1	1.1%
保育実習 I	22Y	選択	85	81.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導 II	22Y	選択	84	81.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導 III	22Y	選択	7	81.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
社会的養護 I	23Y	選択	72	81.6	24	32.4%	26	35.1%	12	16.2%	11	14.9%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
特別な教育的ニーズの理解とその支援	22Y	4.4	4.5	4.4	4.3	65.1分	4.3
保育実習 I	22Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導 II	22Y	*	*	*	*	*	*
保育実習 II	22Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導 III	22Y	*	*	*	*	*	*
保育実習 III	22Y	*	*	*	*	*	*

教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）	22Y	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	22Y	*	*	*	*	*	*
社会的養護 I	23Y	4.7	4.8	4.7	4.4	35.8分	4.6
保育実習指導 I	23Y	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

〈アクティブラーニングについて〉
 今期については、全面的に対面授業を実施できた（講義・演習とも）。結果として、学生の意欲的な取り組みと充実した学習成果を得ることができたと考える。アクティブ・ラーニングとしてすでに実施しているグループ演習や、個別の調査学習のほかにも、より効果的な実施形態を検討し、実施していきたい。

〈オフィスアワーについて〉
 効果的に活用できた。オフィスアワーをきっかけに学生が訪室しやすくなることで、よりスムーズな学生支援の実施につながられた。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

1. 担当する授業の内容の充実と、学習成果の向上
 まず、学習習慣の定着を図り、基礎的知識の定着を目指す。演習については、すでに実施しているアクティブ・ラーニングのブラッシュアップを図りつつ、その他の演習方法の採用も検討し、より充実した授業実施に向けて取り組む。
2. 実習指導体制の確認と内容の充実
 実習指導授業の見直しを継続する。実習や保育現場での支援を意識した授業のあり方の工夫と、教員間の協力・情報共有体制の強化を行う。
3. ゼミナール活動の充実
 まずは学生ごとに異なる能力・意欲・希望に対応できるよう、徹底した個別支援・指導の実施を継続する。また、学科教員間で連携しながら、より適切なゼミ活動の実施に向けた検討を進める。

令和 5 年度 前期 授業評価報告書	氏名	織田 芳人
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

①保育方法論
 実習先の園から、実習日誌や指導案の作成にパソコンを使わせないように大学が指導しているのかという質問がはじまっているので、実習日誌の様式を作成させたことは意義があった。しかし、実際に実習で活かせるかという点、パソコンがない学生が多く、プリンタがない学生がほとんどという現状がある。

②子どもと玩具
 本人の希望に沿った玩具製作を実践させたので、教育的には意義があったと考える。しかし全体的な満足度が低く、どのような対応が考えられるか検討が必要である。

③ゼミナール
 Aグループは前期で製作をほとんど終えているので、後期は早々に玩具に関するアンケート調査等を行い、結果をまとめる。Bグループは原点に少し立ち戻って、どのようにまとめていくかを説明してから、製作を急がせる予定である。

④情報科学
 授業評価アンケートで、全体的な満足度が4.0だったので、イラストを増やし穴埋めの量を減らした授業資料の効果はあったと思われる。ただし、時間を持って余す学生が増えたという印象があった一方で、授業評価アンケートに授業の進捗が速すぎる、わからないという記述もあって、学生間でパソコン理解度の格差が年々広がっている感じがするので、今後の対応がより難しいと考えている。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

①保育方法論
 実習園でパソコン使用が許された場合に利用できるように、Wordで実習日誌及び指導案の様式を作成する。将来、勤務した保育施設で簡単なプレゼンができるように、PowerPointで実習園の紹介スライドを作成する。

②子どもと玩具
 ヨーロッパにおける教育玩具の歴史を概説し、受講生の希望に沿った玩具製作を実践させる。

③情報科学
 イラストを増やし、スライドの文字を減らしてポイントを少し大きめに設定する。余裕のある受講生に応用的な課題を提示する。PowerPointへの興味を喚起させるためキャラクター制作を取り入れる。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

①保育方法論
 Wordで実習日誌及び指導案の様式を作成する。スマホでも利用可能なように、Wordの様式を適切に設定する。PowerPointで実習園の紹介スライドを作成する。

②子どもと玩具
 ヨーロッパにおける教育玩具の歴史を概説し、受講生の希望に沿った玩具製作を実践させる。最後に、玩具の安全性について概説する。

③情報科学
 Wordで「お知らせ」の類の文書を作成する。PowerPointで動物キャラクターを作成する。ヴィジュアル・プログラミングの初歩としてScratchを体験する。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

①保育方法論
 実習で、実際に日誌や指導案を作成する学生が増えてきた。一方、手書きを求める実習園もあるので、実習先でのパソコン使用は慎重に進める必要がある。

②子どもと玩具
 受講生の希望に沿った玩具製作を実践させたので、教育的意義はあった。

③情報科学
 授業評価アンケートの自由記述から、イラストを増やし、スライドの文字を減らしてポイントを少し大きめに設定した効果はあったと思われる。しかし一方で、授業進捗が速すぎる、わからないという記述も相変わらず存在するので、学生間でのパソコン習熟度の格差が年々広がっているようである。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子どもと玩具	22Y	選択	2	85.0	1	50.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育方法論	22Y	選択	85	69.2	5	5.8%	14	16.3%	20	23.3%	45	52.3%	2	2.3%	0	0.0%
保育実習 I	22Y	選択	85	69.2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導 II	22Y	選択	84	69.2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導 III	22Y	選択	7	69.2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
情報科学	23Y	必修	72	78.7	8	11.0%	33	45.2%	24	32.9%	7	9.6%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果							
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
子どもと玩具	22Y	4.0	4.0	5.0	4.0	60.0分	4.0

保育方法論	22Y	4.4	4.4	4.4	4.3	49.2分	4.4
保育実習Ⅰ	22Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導Ⅱ	22Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅱ	22Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導Ⅲ	22Y	*	*	*	*	*	*
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）	22Y	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	22Y	*	*	*	*	*	*
情報科学	23Y	4.5	4.3	4.6	4.4	12.3分	4.3
保育実習指導Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

「保育方法論」「情報科学」では、学生間で学び合いが自然発生的に行われている。オフィスアワーを設定しているが、現状は学生が各自の都合で予約なしに尋ねてきている。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

①保育方法論

来年度は、Wordでスマホでもすぐに利用できるような実習日誌及び保育指導案の様式を作成する、PowerPointでデジタル紙芝居を制作する、等を検討する。

②子どもと玩具

実習に活用できるような玩具制作とともに、知育玩具にももう少し時間を割くことを検討する。

③ゼミナール

保育におけるICT活用に関わる内容だけでなく、知育玩具に関わる内容も含めて、調査研究や実践研究を対象とすることを検討する。

④情報科学

Wordでの保育指導案作成のための準備になるような授業を検討する。PowerPointでのキャラクター制作を検討する。

令和 5 年度 前期 授業評価報告書	氏名	大徳 朋子
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

- ・学生の理解度は学年、クラスによっても異なっていると感じた。そのため、講義中に理解度の確認をし、難しい箇所は説明を補足した。
- ・参加意欲についても把握しながら進めていったが、グループ作業などでは、意欲に温度差があり、足並みが揃わないグループなどが生じたため、教員が介入して進めさせるといった場面があった。1つの課題にグループで取り組ませる際の課題を感じた。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ・前年に継続して、学生の理解度を把握し講義内容を修正しながら進めていく。参加への意欲なども把握しながら進めていく。
- ・大事か大事でないかを把握できずに、講義を受けている学生には、ポイントをはっきりと伝え、あとで見返した際に、わかりやすいプリント、ノートになるように声をかける。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- ・講義内容によっては、参加意欲が乏しくなるものもあったため、講義前にアイスブレイクを入れたり、講義中にワークやプリントへの書き込みなどをしてもらいメリハリをつけ、参加意欲の維持に努めた。
- ・グループでの事例検討など主体的に講義が受けられるように配慮した。教科書の説明だけでなく、できるだけ具体的なイメージを持てるように現場の様子や子どもや親とのやりとりなど例に出して説明をし、視聴覚教材などで目で捉え、感じ、考えられる工夫を増やした。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

- ・アンケートの結果より、講義内容については一定の理解が得られたのではないかと考えている。
- ・受講態度からも、グループなど意欲的に発言している様子が多くあり、主体的に参加させるという点は評価できると考える。
- ・プリントの書き込みは講義集中のためには良いが、それも単調になっていることもあった。

自分の意見を考えさせたり、課題に取り組む時間を増やすとともにさらに主体的に受講することにつながると思われる。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
領域「人間関係」の指導法	22Y	選択	74	82.9	28	37.3%	25	33.3%	18	24.0%	3	4.0%	0	0.0%	1	1.3%
教育相談 (幼児のカウンセリング理論を含む)	22Y	選択	85	72.0	2	2.3%	21	24.4%	29	33.7%	33	38.4%	0	0.0%	1	1.2%
発達心理学	23Y	必修	72	77.3	10	13.5%	27	36.5%	22	29.7%	14	18.9%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
領域「人間関係」の指導法	22Y	4.4	4.5	4.4	4.4	55.6分	4.3
教育相談 (幼児のカウンセリング理論を含む)	22Y	4.4	4.4	4.4	4.3	41.0分	4.4
発達心理学	23Y	4.8	4.8	4.6	4.4	23.0分	4.7

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

- ・オフィスアワーの利用者はいなかった。
- ・講義中にプリント課題やグループ討議などをさせると、その間教員に質問をする学生もいた。そのことを、全体の学生にも伝えて理解度の確認をするということもあった。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ・講義中、講義後の質問や意見交換などは前年度に引き続き大切にしていきたい。そこから学生の講義に対する意欲や理解度を把握することもできると思われる。
- ・講義が単調にならないような工夫は継続したい。
- ・学生が授業への意欲を高めて授業参加ができるように引き続き検討していきたい。

令和 5 年度 前期 授業評価報告書	氏名	中村 浩美
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

・2年生は今年度より選択となった「子どもの歌と伴奏法」で、学生の選択人数がとても気になっていた。しかし、今年度は1年次の「保育と音楽表現」でも2年次で行う授業内容に繋がる方法を取り入れた。手遊びやその導入、子どもの好きな歌など。また保育の観点から音楽の意識を高めるようにも努めた。

・コロナ過でのマスク着用による大きな影響を及ぼした表情、応答、コミュニケーション力等の問題、どれを取っても社会人にとって必要不可欠であるが、その前に本学の学生として、実習先の実習生としてこれらの基本力を養わせたい考えが強かった。つまりその事は子どものための音楽表現に大きな影響を与える事となり、心の育みから音楽に精通する意味も念頭に持ってもらいたい授業とした。

・多くを望み過ぎた授業になり過ぎた時もあったため、授業予定や内容の段取りと工夫をする必要性があった。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

・声を出さず実技授業なので、教員も学生もマスクを着用しながら、また教室の窓を開けてコロナ感染予防を第一に授業を行った。しかし「保育と音楽表現」の授業は1クラスの数人が少ないため、声を人に向けて発しないよう間隔をあけて2,3人ずつ歌う事や、一人ずつ歌う事を試みた。

・自身の声や出し方に疑問や羞恥心を持つ学生が多いため、個人ずつでの発声法の指導に当たり出し方を少しずつ掴んでいけるよう取り組み、イメージ力に対しても楽曲の内容を理解しながら想像画を描いて歌詞を読む事も行い楽曲が生きて楽しさも感じられる工夫をした。

・今後も自身の声への嫌悪感や人の前で歌う事の羞恥心を軽減できるための指導法と、イメージ力を持って歌えるよう、学生もその大切さに気付きながら授業に取り組める指導を行いたい。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

・歌う事の喜びや楽しさを一層感じるために、表情や姿勢、歌唱のための筋肉を使う場所とその使い方を全員一緒に活動するだけでなく、個別のみでも取り入れた。個別での指導は全員の前で一人で歌う気恥ずかしさやプレッシャーを感じるのによく把握しているが、声質やどこからファルセットか、ミックスヴォイスかの判断をする必要があると考えているため指導に当たった。学生自身がどう声を出せば良いかわからないと言う年度初めの意見を聞き、学生の了承も得て取り組んだ。

・周りの学生にも一人の学生の声の出方の変化に対してどこが良い面として変わったかどこがまだ改善が必要かの気付きと興味を持つ授業となった。

・発声法として楽曲を使わない方法を、楽曲を使いながらの発声法としたが、もう少し楽曲を中心にしながら取り組む方が現場での実践力となったと考える

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

「保育と音楽表現」「子どもの歌と伴奏法」はピアノレッスンのみのアンケートとなっているため、数値的な観点からはわからないが、学生より歌う事が楽しくなった、実習に向けての実践に役立ったと言う声を聞く事ができた。また、「幼児とうた表現」のゼミナールと演習では、毎時間の授業での発見と課題、個人やメンバーの変化に気付き、実技的な探求心や、個人の目標意識のみならず、メンバーで一つの方向性に目を向けながらの考え、想像力、チーム力を強化したいと感想を述べていた。

工夫の在り方と、モチベーションを上げるための教員としての配慮と指導は気を許す事なく指導に当たりたいと考えている。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育実習 I	22Y	選択	85	77.3	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導 II	22Y	選択	84	77.3	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導 III	22Y	選択	7	77.3	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもと音楽表現	23Y	必修	72	84.7	14	19.4%	46	63.9%	10	13.9%	2	2.8%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学習時間	全体的な満足度
子どもの歌と伴奏法	22Y	4.6	4.6	4.5	4.5	95.6分	4.6
保育実習 I	22Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導 II	22Y	*	*	*	*	*	*
保育実習 II	22Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導 III	22Y	*	*	*	*	*	*
教育実習(事前・事後指導1単位含む)(幼)	22Y	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	22Y	*	*	*	*	*	*

音楽演習	22Y	*	*	*	*	*	*
子どもと音楽表現	23Y	4.7	4.6	4.8	4.6	15.9分	4.6
保育と音楽表現	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導 I	23Y	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

・授業始めの出欠を「朝のお集まり」の一部として、2.3人一組で先生役になり、その他の学生は園児になって会を展開していき、先生役の学生の良かった点と課題点の感想を発表した。先生役がどんな工夫で出欠を取り、園児役は子どもの心理状況をどのように考えて発言するか実習や現場で生かせる内容を取り入れた。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・ピアノレッスンに関しての不安感が強い学生、自分の声や声の出し方にコンプレックスがある学生へのメンタル面の強化や、学生自身が各々の課題を知り克服できるための指導を強化したい。
 ・マスク着用関係なく、みんなが笑顔でしっかりした声で挨拶ができるよう、褒める事も大切に指導していく。
 ・学生一人ひとりの性格を早く把握し、各々の個性を大切に教員と学生間の信頼関係を構築しながら指導したい。
 ・学生自身が自分の良さや課題点、好きな面、嫌いな面と、自分を知る事によっ今後の人生にどう繋がるかのディスカッションを設け、教員も自身の人生経験を話しながら課題点を克服できるように、また良い点はさらに伸びるよう指導したい。

令和 5 年度 前期 授業評価報告書					氏名		野田 章子									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
前年度なし。																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
授業の目標は、根拠をもって成績をつけられるように、評価の視点をはっきりとさせておくこと。また、アクティブラーニングのような主体的、能動的な学びをより多く取り込み、学生の達成感や満足度を高めることである。																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
運動遊びの実践は、グループ・ワークによる創作活動を行った。体育講義と子どもの健康では、グループ・ディスカッションやグループ・ワークを取り入れた。そのことが、学生の学習意欲などにつながったと思う。																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
学生の理解度を、もう少し高められる可能性がある。アクティブラーニングなどの取り組みを多く取り入れられたことは成果であるが、授業の目的やねらいが分かりにくくなってしまった。自由な話し合いや創作活動は、主体的でとても良いが、その話し合いや取り組みがどこへつながっているのか、どんな力になるのかを明確に示す必要がある。そうすることで、本授業に対する学生の理解度が高まると考える。また、グループ・ワークによる創作活動では、グルーピングが理解度に影響していたので、来年度の課題としたい。																
科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
運動遊びの実践	22Y	選択	86	83.9	24	27.6%	47	54.0%	15	17.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%
保育実習指導Ⅱ	22Y	選択	84	83.9	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅲ	22Y	選択	7	83.9	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
体育講義	23Y	選択	72	80.6	24	32.0%	24	32.0%	14	18.7%	12	16.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもと健康	23Y	必修	72	84.8	38	52.1%	22	30.1%	3	4.1%	9	12.3%	0	0.0%	0	0.0%
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度									
運動遊びの実践	22Y	4.5	4.5	4.5	4.4	39.4分	4.4									
保育実習指導Ⅱ	22Y	*	*	*	*	*	*									
保育実習Ⅱ	22Y	*	*	*	*	*	*									
保育実習指導Ⅲ	22Y	*	*	*	*	*	*									
教育実習(事前・事後指導1単位含む)(幼)	22Y	*	*	*	*	*	*									
ゼミナール	22Y	*	*	*	*	*	*									
体育講義	23Y	4.5	4.6	4.6	4.4	41.0分	4.6									
子どもと健康	23Y	4.6	4.7	4.6	4.4	36.3分	4.6									
保育実習指導Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*									
*…学生による授業評価アンケート実施対象外																
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																

両方とも、円滑にすすめることができた。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

アクティブラーニングを取り入れた後の、フォロー学習（まとめ）を考える。

令和 5 年度 前期 授業評価報告書	氏名	福井 昭史
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

「子どもと音楽表現」は本年度から15回から8回の授業へのカリキュラム変更があったことから内容の精選を図った。
 「保育と音楽表現」と「子どもの歌と伴奏法」ではピアノの授業を担当し、その技能と表現力の向上を図るための指導方法と教材の開発を行うこととした。
 「生活と音楽」では前年度、合奏表現の活動を取り上げたところ学生の意欲も高く効果的であったため、今年度も取り入れることとし、その教材開発にあたることとした。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

「子どもと音楽表現」は各時の目標と内容を精選し、目標を焦点化した指導計画を作成し、指導にあたる。
 「保育と音楽表現」と「子どもの歌と伴奏法」で担当するピアノの授業の教材開発を行い、学生の技能のレベルに合った学習を展開することに努める。
 「生活と音楽」では、合奏表現の活動を取り入れたカリキュラムを作成するとともに、そのための教材を開発し指導にあたることとする。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

「子どもと音楽表現」では、各時の目標と内容を焦点化し、学生に授業の目標を自覚させながら活動にあたった。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

「子どもと音楽表現」では、学生が各時の目標を自覚して活動することができたため、活動意欲や理解度が高まったことがアンケートの結果に表れていると考えられる。

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育実習 I	22Y	選択	85	84.8	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導 II	22Y	選択	84	84.8	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導 III	22Y	選択	7	84.8	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもと音楽表現	23Y	必修	72	84.7	14	19.4%	46	63.9%	10	13.9%	2	2.8%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度
子どもの歌と伴奏法	22Y	4.6	4.6	4.5	4.5	95.6分	4.6
保育実習 I	22Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導 II	22Y	*	*	*	*	*	*
保育実習 II	22Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導 III	22Y	*	*	*	*	*	*
教育実習 (事前・事後指導1単位含む) (幼)	22Y	*	*	*	*	*	*
子どもと音楽表現	23Y	4.7	4.6	4.8	4.6	15.9分	4.6
保育と音楽表現	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導 I	23Y	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

「子どもと音楽表現」では、楽器を用いたグループによる創造的な活動を取り入れた。
 「保育と音楽表現」と「子どもの歌と伴奏法」では、学生が歌やピアノ演奏の独自の課題に対して主体的に取り組めるよう努めている。
 「生活と音楽」では、楽器による表現の活動、個人やグループによる音楽の創作を取り入れている。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

令和 5 年度 前期 授業評価報告書	氏名	船勢 肇
--------------------	----	------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

- ・今年度も「難しい」と感じつつ、内容に理解を得られた点は、意図が伝わっていて良かったと思える。
- ・いくつか、授業への要望もあったので、それを受け止めさらに質の向上を図る。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ・授業への要望もあったので、それを受け止めさらに質の向上を図る。
- ・授業の中で、理解を確認する機会をより増加させる。
- ・映像資料の発掘を継続的にこなす。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- ・教育原理については、昼過ぎの授業ということもあってか、講義が特に辛いようだった。そこで、アクティブラーニングとグループ討議を急遽とり入れた。
- ・映像資料とその内容確認のためのレジュメ作成をおこなう。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

- ・教育原理のアクティブラーニングについて、急遽とり入れたこともあって準備不足があった。とくにグループが大人数すぎた。次年度は改善に努めたい。
- ・映像資料とそのレジュメについては、好評を得られた。ただ、難しいと感じる学生も出た。また、さらに自分自身の考えを打ち出せる力もつけてほしいので、そのための工夫もおこないたい。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
教育原理 (教育史を含む)	22Y	必修	85	72.6	1	1.2%	8	9.3%	59	68.6%	17	19.8%	0	0.0%	1	1.2%
保育実習 I	22Y	選択	85	72.6	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導 II	22Y	選択	84	72.6	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導 III	22Y	選択	7	72.6	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもと言葉	23Y	必修	72	82.2	20	27.4%	42	57.5%	9	12.3%	2	2.7%	0	0.0%	0	0.0%
保育原理	23Y	選択	72	70.8	3	4.1%	5	6.8%	32	43.8%	32	43.8%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
教育原理 (教育史を含む)	22Y	4.2	4.2	4.4	4.1	69.5分	4.3
保育実習 I	22Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導 II	22Y	*	*	*	*	*	*
保育実習 II	22Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導 III	22Y	*	*	*	*	*	*
教育実習 (事前・事後指導1単位含む) (幼)	22Y	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	22Y	*	*	*	*	*	*
子どもと言葉	23Y	4.6	4.5	4.6	4.4	35.1分	4.4
保育原理	23Y	4.6	4.6	4.6	4.5	26.0分	4.5
保育実習指導 I	23Y	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

- ・アクティブラーニングは、特に教育原理にて大幅に増加させた。
- ・オフィスアワーは事前の通知通りおこなった。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

- ・教育原理のアクティブラーニングは、事前講義・資料配付・グループ分けなど、よりスムーズに効果的に行えるよう準備する。
- ・授業の内容を理解することにくわえて、一人の大人として、自分自身の考えを論じられるように求めたい。

令和 5 年度 前期 授業評価報告書	氏名	松尾 公則
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)

ヒトと生物は、昨年度とほぼ同じ受講者だったので、標本や実物などを一人ひとりにゆっくりと見せることができたし、講義もいい雰囲気の中で実施することができた。全体的な満足度も、4.5と4.8でまずまずの数字が出ていた。人数が20名程度の場合はこのままでよいと思うが、増えた場合への対応は一考の余地がある。栄養士の科学は、受講態度もよく、全体的な満足度も、4.7と高い値になっていた。座席を指定したことがいい結果に結びついたと思われる。ゼミについては、一週間1コマでできることが大体分かってきたので、来年度も同様に進めたいと思う。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

ヒトと生物は、人数が昨年度とほぼ同じ18人だったので、講義と標本や実物などとの触れ合いをバランスよく実施していきたい。
 栄養士の科学は、受講生が大幅に増加したので、座席を指定し、いい雰囲気の中で講義を実施したい。
 ゼミナールは限られた時間の中でポイントを絞って活動していきたい。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)

ヒトと生物は、18名という丁度よい人数であったため、講義も触れ合いの時間も十分に確保することができた。
 栄養士の科学は、受講生が増えたため、目配りをしながらの講義を行いたい。特に、成績下位者への配慮をしながら講義を行った。
 ゼミナールは、例年通りである。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

ヒトと生物は、全体的な満足度が4.9と5.0となり、十分な成果を得られたと思う。選択科目ではあるが、学習意欲の高い学生が多く教える側としても満足しながら講義ができた。
 栄養士の科学は、全体的な満足度が、昨年の4.7から4.5にやや減少した。学生数が大幅に増え、全体的な配慮が欠けてしまったからかもしれない。15回連続して複数の欠席者が出てしまい、なかなかいいムードを作り出せなかったのも満足度の低下の原因と思われる。
 ゼミナールは、ほぼ予定通りに実施できたが、時間数の減少から学生との触れ合いが減っている。短い時間の中でどう接するかが課題である。

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ヒトと生物	22S	選択	16	94.4	13	81.3%	3	18.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ヒトと生物	22L	選択	2	#####	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
栄養士の科学	23S	必修	34	82.2	10	29.4%	12	35.3%	6	17.6%	6	17.6%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度
ヒトと生物	22S	4.8	4.9	4.9	4.9	20.6分	4.9
ヒトと生物	22L	5.0	5.0	5.0	5.0	60.0分	5.0
ゼミナール	22Y	*	*	*	*	*	*
栄養士の科学	23S	4.5	4.4	4.4	4.3	40.8分	4.5

*...学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

講義と演習のためアクティブラーニングは実施していない。
 オフィスアワーは講義内容の説明ぐらいである。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

より高い学生の満足度を目指して努力したい。「理解できた」、「おもしろかった」、「なるほどね」などの言葉が出てくるような講義を目指したい。
 具体的には、限られた短い時間をどう使っていかである。

令和 5 年度 前期 授業評価報告書	氏名	本村 弥寿子
--------------------	----	--------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

レジュメの見直しや遊びの実践を取り入れることで学生の満足度と理解度が増した。しかし、C評価の学生も約50%存在し、学生の学習の理解度が2極化してきている。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

学生の理解度をあげることを目標とする。そのために、理解度の低い学生を基準として学習内容の精選を行う。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

短時間でできる遊びの実践や保育の実践事例を読んだり視聴したりする機会を増やし、講義内容を実際の保育実践を通して理解できるように工夫する。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

実際の遊びの実践は、時間的なゆとりがなかったため、教科書の事例や授業者の経験を多く紹介するよう心掛けた。授業評価アンケートでの満足度は前年度より高くなり、成果があったと思われる。ただ、C評価の割合は前年度より若干高い。学修理解度の2極化が進んでいるようにも感じられるが、“何が大事なかわからない”といったコメントが2名から出ており、重要な部分を一層ポイントを絞って講義することが求められているようである。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育方法論	22Y	選択	85	69.2	5	5.8%	14	16.3%	20	23.3%	45	52.3%	2	2.3%	0	0.0%
保育実習 I	22Y	選択	85	69.2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導 II	22Y	選択	84	69.2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導 III	22Y	選択	7	69.2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもと環境	23Y	必修	72	68.1	4	5.5%	6	8.2%	19	26.0%	43	58.9%	0	0.0%	0	0.0%
保育内容総論	23Y	必修	72	69.2	8	11.0%	10	13.7%	12	16.4%	42	57.5%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育方法論	22Y	4.4	4.4	4.4	4.3	49.2分	4.4
保育実習 I	22Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導 II	22Y	*	*	*	*	*	*
保育実習 II	22Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導 III	22Y	*	*	*	*	*	*
教育実習 (事前・事後指導1単位含む) (幼)	22Y	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	22Y	*	*	*	*	*	*
子どもと環境	23Y	4.5	4.5	4.6	4.4	26.0分	4.4
保育内容総論	23Y	4.6	4.5	4.6	4.4	37.1分	4.4
保育実習指導 I	23Y	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

1回の遊びの実践（玉入れ）を行い、保育内容や「領域」とは何かをディスカッションする機会を設けた。また、事例を基に保育者の援助や子どもの育ちを探る機会を設け、協議するグループ活動を行った。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

学修内容の精選を行う（講義内容の精選と遊びの実践や事例の読み取りの機会を設ける）。
学修内容の理解度を見る機会をこまめにとり、理解が十分でない内容を早い段階で把握し対応する。

令和 5 年度 前期 授業評価報告書	氏名	山中 慶子
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

「子どもと表現（造形）」では、技法あそびを通して、学生の造形技術のスキルアップを目標とした。。作品掲示・鑑賞にも力を入れた。
 「子どもの絵と製作（指導法）」では、幼児の造形計画や、幼児に指導する際のスキルについて実践を取り入れながら授業を行うことで、学生が保育技術を身につけることを目標とした。

学生のアンケート内容から、おおむね達成できたと考える。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

「基礎」⇒「応用」、「Ⅰ」⇒「Ⅱ」のように、段階を追ってステップアップできる内容が求められるため、まず、学生の基礎的な知識・技術を把握することが求められる。
 そのうえで、「基礎」「Ⅰ」では、保育者として、現場で必要なスキルを身に付けられるよう指導を進めていくことを目的とする。

グループワークの評価方法が曖昧なため、今年度は評価方法を検討する。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

「子どもと造形表現（基礎）」では、幼児と楽しむ基本的な技法を製作を通して学ぶ。「子どもと造形表現（応用）」では、よりレベルの高い技法を製作を通して学ぶ。
 「子どもの絵と製作Ⅰ」では、幼児造形の素材や道具について学び、「子どもの絵と製作Ⅱ」での模擬保育につなげていきたい。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

選択科目を受講する学生が、より深い学びを得られるような授業内容にしていくことが課題である。

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子どもの絵と製作Ⅱ	22Y	選択	32	84.4	9	28.1%	18	56.3%	3	9.4%	2	6.3%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅰ	22Y	選択	85	84.4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅱ	22Y	選択	84	84.4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅲ	22Y	選択	7	84.4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもと造形表現（基礎）	23Y	必修	72	86.8	21	29.2%	38	52.8%	12	16.7%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%
子どもと造形表現（応用）	23Y	選択	43	79.2	5	11.4%	32	72.7%	5	11.4%	0	0.0%	1	2.3%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度
子どもの絵と製作Ⅱ	22Y	4.8	4.9	4.7	4.8	72.0分	4.8
保育実習Ⅰ	22Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導Ⅱ	22Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅱ	22Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導Ⅲ	22Y	*	*	*	*	*	*
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）	22Y	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	22Y	*	*	*	*	*	*
子どもと造形表現（基礎）	23Y	4.9	4.9	4.8	4.8	41.8分	4.7
子どもと造形表現（応用）	23Y	4.8	4.8	4.9	4.8	41.8分	4.9
保育実習指導Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

造形に関する授業では、基本的に学生が主体的に取り組めるグループワークを取り入れている。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

選択科目を受講する学生の増加を次年度の目標とする。

令和 5 年度 前期 授業評価報告書					氏名		池田 光彦									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)																
2020年度～2022年度における学生による授業評価アンケートの結果について検証したところ、「内容やレベル」4.1→4.3→4.4、「教員の教え方」4.1→4.4→4.5、「学生の学習意欲」4.0→4.2→4.6、「学生の理解度」4.0→4.2→4.2、「全体的な満足度」4.3→4.4→4.5となっており、年度毎に改善されていることが推察された。一方で課題であった「授業外学習時間」は36.8→23.8分→33.5分となっており、2022年度は2021年度より授業外学習時間が10分程度増えた。しかしながら目標として設定している学習時間は60分としているため、2023年度に向けて引き続き改善が必要である。																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)																
2020年度から2022年度の授業評価アンケートの結果、授業運営の面に関しても、学生の「授業に取り組む意欲」「授業の満足度」「授業内容の理解度」は一律に高い水準を保っており、毎年改善へ向かっていることから、これまでの授業実践を引き続き行っていくことが重要であると考え、これを今年度の目標とした。一方で、授業時間外学習時間は増加傾向にあるものの前年度では33.5分と依然として短い時間に留まっているので「60分」を目標値として設定する。また、2022年度においては授業外学習時間が60分以上である学生は全体の25%にも満たなかったことから、2023年度は「25%以上」を目標値とする。																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)																
ただ単に授業外で取り組む課題を課せば授業外学修時間は増えるがそれでは意味が無い。学生の主体的な学修を促すことが肝要である。そこで、学生が主体的且つ自律的に学修へ向かう姿勢を醸成すること、並びに学修内容の興味喚起を目的として、他の科目及び栄養士実力認定試験との連関を意識した授業を展開した。具体的には、食品衛生学、食品加工学、調理学、生化学、基礎栄養学との連関を意識した。																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
今年（2023年）度の学生による授業評価アンケートの結果も含めて2020年度～2023年度の4カ年の結果について検証したところ、「内容やレベル」4.1→4.3→4.4→4.3、「教員の教え方」4.1→4.4→4.5→4.3、「学生の学習意欲」4.0→4.2→4.6→4.3、「学生の理解度」4.0→4.2→4.2→4.1、「全体的な満足度」4.3→4.4→4.5→4.1であった。ポイントの増減は小数点以下であり、これは受講生全体の人数の多寡に影響されることが考えられるので、各質問項目ごとに前年度と今年度の結果を比較し検証を行った。まず、教員側については次のおり前年度と大きな変化は見られなかった。「内容やレベル」について「十分適当であった」もしくは「ほぼ適当であった」と回答した者の合計は80%を越えていた。「教員の教え方」の満足度について「十分満足できた」「ある程度満足できた」と回答した者の合計は80%を越えていた。しかしながら、授業の総合評価において「満足できなかった」と回答している者も確認され、自由記述にも「前に書かれている文字が見にくかった」とあることから、板書は特に気を付けたい。次に、学生側については年度によって違いが確認された。「学修の取組」について「十分に取組んだ」「ある程度取組んだ」と回答した者の合計は前年度に比べて10%程度減少した。「授業の理解度」について「十分理解できた」「ある程度理解できた」と回答した者の合計も前年度に比べて10%程度減少した。さらに、課題であった「授業外学習時間」2022年度から2023年度にかけて36.8分→23.8分→33.5分→27.5分となっており、昨年度より授業外学習時間が6分減少した。授業外学習時間の目標値として設定している学習時間は60分でありその半分にも満たない。したがって、学生の自主的な学習をさらに促す仕組みの構築が課題であると考えられる。他にも今年度の目標として、一週間の授業外学習時間が60分以上となる学生の割合を25%以上とすることも目標として設定していたが、昨年度よりも若干増えてちょうど25%となったことは少しだけ評価できる。また、自由記述の内容を踏まえると、これら自由記述の回答をした学生が1時間以上授業外学習を行っている25%の層であると推測され、そうでない残りの75%の層をどのように自主的な学修に向かわせるかが最大の課題である。																
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
食品学Ⅰ (食品成分の科学)	23S	必修	34	81.1	11	32.4%	7	20.6%	10	29.4%	6	17.6%	0	0.0%	0	0.0%
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
食品学Ⅰ (食品成分の科学)	23S	4.3	4.3	4.3	4.1	27.5分	4.1									
*…学生による授業評価アンケート実施対象外																
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
アクティブラーニング（以下ALと略記）は「具体的・直接的コミュニケーション」であると捉えており、手法にこだわるのではなく、学生と教員間で具体的・直接的コミュニケーションがなされているのであれば全てそれはALであると考えている。担当授業では、常に双方向型（学生⇄教員）の展開を意識して授業を実施した。そのことによって、学生の理解度などを常にチェックしながら授業の進行をができた。オフィスアワーは実施していない。																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)																

- ①授業の質を維持するとともに質の向上を試みる
- ②授業外における自律的且つ主体的学修を促す仕組みをつくる
- ③授業外学習時間が1時間以上となる学生を増やす(数値目標は50%以上)

令和 5 年度 前期 授業評価報告書	氏名	井上 靖久
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

実習で得られたデータの解析にあたって、教科書的な記述と異なる場合に、単純に実験ミスや間違い・勘違いなどの結論に結び付けるのではなくて、原因を十分に論理的に考える工夫をしてみるように指導した。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

まず、実験や観察を始める前に、行う手順を理解して確認する。
各人が得られた実験結果や観察から自分自身の健康と照らし合わせて考える、さらに、周辺の人物の場合にも宛てはめて考察する。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

授業はグループで行うが、導き出すデータは各個人のものであったり、グループで共有するものであったりするために、個人のデータであっても、グループ全体のものであったり、グループ全員で共有し、相違点や、疑問を全員で解決する様にする。その際、教科書的事実と異なる場合は想像で考察するのではなくて、必ず教員に相談や確認をしたものを基本として提出するレポートに反映させる必要がある。このことを強調したい。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

授業アンケートの結果は9割以上がある程度以上評価しているので、特に問題はないと考えている。成績もA評価が6割近くを占めており、授業態度、レポートの提出状況も概ね問題はなかったと考えている。内容のレベルも適当であったと考えている。教員の指導や学生の学習意欲も4.3ないし4.4で悪くはないと思われる。これに比して理解度が若干低いのは気になるところではあるが、科目の性質からやむを得ないものとも思わざるを得ない。加えて、全体的な満足度も問題はないと考えるが、他の教員の科目については知るところではないので、これで良しとするのは楽観的に過ぎるのかもしれない。また、長年授業報告書を提出しているが、毎年、同様の結果である。これで良しとするのか、進歩がないとするのか気になるところではある。学生が入れ替わるので検証出来ないだろうが、今日委員としては永遠のテーマなのかもしれない。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
解剖生理学実習	22S	選択	24	81.5	3	12.5%	14	58.3%	4	16.7%	3	12.5%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
解剖生理学実習	22S	4.2	4.3	4.4	4.1	91.3分	4.4

*...学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

最後の授業を使って、学生自らに協力してグループごとにテーマを与えて発表の準備から口頭発表までを作業量が平等になるように注意して、ワークショップを行わせている。これをもって実習の総まとめを兼ねている。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

実験はグループごとに行うが、出てくるデータは個人単位のもの、グループで共通のものが混在し、レポート提出の際に個人差がお大きくなっていった。この点をなるべく全員に理解や感慨が及ぶようにして行きたいと考えている。

令和 5 年度 前期 授業評価報告書	氏名	尾崎 好子
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

前回の医療事務実技でも受講頂いた学生さんはみなさん資格取得の意欲にあふれ、積極的に講義を受けて下さる方ばかりでおおむね理解を深め、資格も取得された方ばかりなので今回も同じように、誰一人とりこぼす事なく単位を取得し試験に合格して頂けるような講義を心がけました。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- (1) 理解度を確認しながら丁寧に講義を進行する。
- (2) 資格取得を希望する受講生が全員合格できる難易度で講義を行う。
- (3) 講義を振り返る際に分かりやすい板書を心がける。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- (1) テキストに沿って診療報酬明細書の書き方について説明する。
- (2) 練習問題を各自で解き、解説を行う形式で授業を進める。
- (3) 一人ひとりの答案を確認し、受講生から頂いた質問は全体にフィードバックし、その都度説明を行う。
- (4) 受講生が自分で考え自分で課題と向き合う時間を取り、解説の時間には質問を受け付ける時間を設ける。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

ほぼ全員が満点に近い点数で科目試験をクリアされましたので、今回も意欲的に講義に取り組んで下さる学生さんが揃っていたと思います。アンケートでも質問のしやすさや分かりやすさを取り上げて下さる学生さんがいらっしやったことはとても励みになります。次回も無理のない範囲でしっかりと講義に取り組んでいただけるような講義を構成し、資料を準備していきたいと思っています。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
医療事務実技	22L	選択	8	96.0	7	87.5%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
医療事務実技	22L	5.0	5.0	5.0	4.7	68.6分	4.9

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

全体の理解度把握のため質問の時間を区切りごとに取りました。質問を頂いたら受講生全員に共通理解できるようフィードバックを行いました。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

今回も学ぶ意欲の高い学生さんばかりでしたので、次回も今回同様に充実した講義となるよう資料研究をし全員が診療報酬明細書が書けるようになるためにしっかり準備をして臨みたいと思います。

令和 5 年度 前期 授業評価報告書	氏名	小林 寿人
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

各回の学習目的をより明確にし、学生が理解できる授業を行う。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

ワークショップ（新聞作りなど）において具体的に制作過程を提示し、より分かりやすい授業に務める。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

(1) 毎回、自分の気になった記事の感想などを書いた付箋紙付の新聞を班内で回し読み、いろいろな考え方（記事のとらえ方）があることを理解してもらった。
 (2) 自己表現の方法として「自己PR新聞」を作成するワークショップを今年も実施。(1)と同様に思考の多様性、自己表現について学ぶ機会を設けた。
 (3) 事業者（九州博報堂・包行氏）に仕事について話してもらい今後の就職活動の参考にしてもらおうとともに同社が制作したSDGsを学べるカードゲームを使ったワークショップを実施し、SDGsへの意識を高めた。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生による授業評価アンケートの結果は特に問題はなかった。評価については今年は全体的にグループワークに積極的に取り組む学生が多かった。ワークショップの制限時間を超えるケースが多々みられたこの点については改善を図りたい。成果については①普段、新聞を読むことによってニュースに触れる場をもう置かれた②新聞記事を通じ学生に文章力と読解力の向上の一助となった③「自己PR新聞」を作ることにより学生自身の「強み」「苦手なこと」を見つめなおす時間を作ることができた。以上の3点が今期の成果と考える。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
時事研究	23L	必修	20	77.5	2	10.0%	6	30.0%	12	60.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
時事研究	23L	4.6	4.6	4.5	4.5	37.9分	4.2

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

講義内では①新聞を読んで気になった記事とその理由・感想を班内及び班ごとにでプレゼンするワークショップ②文書（記事）を読んでその要旨となる「見出し」をつけてもらうワークショップ③新聞形式で自己PRをするワークショップを実施、新聞記事の書き方を説明しながら「相手に伝わる」表現について指導した。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

(1) 各ワークショップで実施例を交えて学生に対し、より細かく実践方法を提示する
 (2) 最初のグループワーク時に各テーブルに入りファシリテーターを行い学生にその方法を見せる

令和 5 年度 前期 授業評価報告書					氏名		堺 蘭									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>今年の学生達の勉強意欲を感じ、出来るだけ毎回の会話練習を繰り返すばかりではなく、よく復習しながら、実用の会話能力、簡単な翻訳などができるようになった。より正しい発音練習などがこれからの課題です。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>発音などの練習をより重視し、文章の読解力・会話力などをより積極的に取り込んで進みたい。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<p>毎回の会話練習と同時に中国の文化等を学生たちに紹介し、中国語の特徴などを覚えてもらう。</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>学生たちの意欲を大事にしてできるだけ早いうちに日常よく使う中国語、特に長崎の文化等を中国語で紹介できるように講義を進めたい。</p>																
科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
中国語 I	23S	選択	1	80.0	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
中国語 I	23L	選択	4	79.0	3	75.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%	0	0.0%
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度									
中国語 I	23S	5.0	5.0	4.0	4.0	30.0分	5.0									
中国語 I	23L	4.8	4.8	5.0	4.8	37.5分	4.8									
*…学生による授業評価アンケート実施対象外																
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
<p>（この欄は空欄です）</p>																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>簡単な日常会話力、文章の翻訳力を高めるように進めたい。</p>																

令和 5 年度 前期 授業評価報告書	氏名	沢 みつ子
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

前年度は該当科目の指導及び担当が無く、比較検証不可

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

必須科目になって初めての応用英会話指導だったので、英会話に対して苦手意識をもつ学生が出ないようにすること、それぞれの英会話力を必ずのばし、実力向上のために意欲的に取り組む授業を目標とした。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

①プリント、豆テストを配布、繰り返し指導 (基礎英語力を伸ばすため) ②テキスト暗唱 ③ロールプレイング

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生の基礎英語力にかなりの差があるため、プリント学習については、それぞれの学生のレベルに十分に対応できていなかった。授業評価が高くない (どちらともいえないという) 点は、もっと上手になりたかったという不満ととらえ、実力向上を実感してもらうことが課題と考える。英語嫌いが生まれにくい様にするための努力は実り、成果が出たと思う。将来の進路に関連する会話例を練習したり、ロールプレイング、自分たちで作る寸劇の発表が良かったと思う。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ビジネスの英会話	22L	必修	17	74.3	3	17.6%	2	11.8%	7	41.2%	5	29.4%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
ビジネスの英会話	22L	4.1	4.1	4.5	4.1	70.6分	4.0

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

なし

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

それぞれの実力向上と、自身によるその確認を目標とする。そのために自宅学習の課題やフィードバック方法を工夫する。ロールプレイング、寸劇作成は早い時期にとりかかる。

令和 5 年度 前期 授業評価報告書	氏名	関口 良嗣
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

前年度は不在のため比較ができませんが、前期の後半からは授業にメリハリをつける工夫を始めました。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- (1) 毎日最低10分間英語に触れる習慣づくり
- (2) 学生自ら身の回りの英語に触れ、興味を深めさせる

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- (1) 一時的に丸暗記を強制するのではなく、場所法というメソッドを導入し、さらに自分の知恵をプラスさせ、定着度アップを図らせるよう心がけた。
- (2) テキストやワークで学習する例文や問題文に加え、「使える表現」を授業に導入し、生徒の興味が湧くよう配慮した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

授業評価アンケート結果に授業内容・教え方に特に大きな問題点は見つからなかったが、大いに参考になるコメントもあり、後期に活かせればと思う。リフレッシュタイムを導入し英語に関連した音楽や動画を生徒と共有できたのは好評であった。教材として利用できる英語ニュース音声、洋楽などを更に吟味・導入し、リスニング向上につなげたい。2年生は休日を英語の勉強に充てる生徒は全体割合と同程度であったが、1年生はそうではなかった。時間外に互いに他学生と単語学習をしたものと考え。また、積極的に挙手する生徒も遠慮がちな生徒にも、より配慮する必要性を再認識できた。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
英語 I	23S	必修	34	70.1	1	2.9%	4	11.8%	13	38.2%	16	47.1%	0	0.0%	0	0.0%
英語 I	23L	必修	20	72.5	3	15.0%	1	5.0%	7	35.0%	9	45.0%	0	0.0%	0	0.0%
英語 I	23Y	必修	72	70.2	8	11.1%	7	9.7%	20	27.8%	37	51.4%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
英語	22Y	4.1	4.1	4.1	3.9	50.0分	4.0
英語 I	23S	4.3	4.3	4.1	4.0	45.0分	4.3
英語 I	23L	4.1	4.1	4.4	3.9	37.5分	4.2
英語 I	23Y	4.3	4.4	4.4	4.1	39.3分	4.3

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

授業後もしくは昼食時にリクエストがあれば対応した。毎回約20分程ではあったが、少しでも生徒のプラスになっていれば幸いである。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

小テスト(英単語)のフォーマットを若干変更し、よりスピーディーで正確な採点ができるようにしたい。
授業内容においては、より見やすく、より理解しやすく、より積極的な自習に繋がるクラス運営を目指したい。

令和 5 年度 前期 授業評価報告書	氏名	孫 承言
--------------------	----	------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

(シラバスでは) ハングルの読み書きが可能になり、学習した文法を応用してペアワークやグループワークで簡単な会話の練習を行う。教師は各ペアやグループの発音・表現等を確認し、韓国語で質疑応答を行いながら、読む力・話す力を向上させることが課題だった。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ・「韓国語 I」で習得したハンガルの文字を復習した上で、会話に慣れる練習を積み重ねていく。
- ・ハンガル検定5級とTOPIKの初級に合格できる能力を身に付ける。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- ・ペアで会話の練習を行う。教師は発音・表現等の間違いを修正するほか、韓国語で質疑応答を行う。
- ・授業終了後、課題を提供し、学生の自主学習を促す。
- ・定期的に小テストを行い、読む力を評価する。
- ・提出された課題等は採点し、コメントを付して返却する。
- ・授業中に行う臨時テストは、解答の解説を行う。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生による授業評価アンケートの結果は非常に参考になった。今回のアンケートで、内容やレベルは4.4と4.3だったが、学生の理解力は4.1、3.8で、レベルに比べて理解力が低かった。また、「ハンガルの読み書きが難しく、文法に付いていけなかった」、「スピードが早かった」という声もあった。その結果、課題の提出率が低く、小テスト・定期試験の成績も基準に達しない受講者が多かったと思う。一方、授業に積極的に参加し、優秀な成績を修める受講者も多かったため、受講者のレベルがまちまちな中で、どのレベルとスピードに合わせるかが課題であると感じた。今後は復習をより徹底的に行ったり、ワークシートの課題を増やして、全員がハンガルの読み書きが可能となるように努めたい。また、ワークシートや小テストの成績が低い受講者にはレベルに合うワークシートを配付したり、授業中に頻繁にコミュニケーションを取りながら基礎から繰り返して学習できるようにする。

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
韓国語 I	23S	選択	15	60.9	3	20.0%	1	6.7%	2	13.3%	0	0.0%	9	60.0%	0	0.0%
韓国語 I	23L	選択	16	75.1	3	18.8%	4	25.0%	3	18.8%	4	25.0%	2	12.5%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度
韓国語 I	23S	4.4	4.6	4.6	4.1	38.3分	4.3
韓国語 I	23L	4.3	4.4	4.5	3.8	60.0分	4.1

*...学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

- ・授業終了後、文法のワークシートの課題を提供(約10回)し、学生の自主学習を促している。提出された課題は採点し、添削して返却している。
- ・授業中及び終了後、単語や発音などの質問があり、単語の意味を説明したり、一緒に発音してみるなど、指導を行った。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ・復習を十分に行う。
- ・ペアワークやグループワークで簡単な会話の練習を行う時、教師は各ペアやグループの発音・表現等を確認し、間違いを修正するほか、韓国語で質疑応答を行う。
- ・レベルに合うワークシートを配布する。提出されたワークシートは添削して返す。
- ・ワークシートや小テストの解説を行い、直ちにフィードバックできるようにする。
- ・学習意欲の低い学生に対して、やや難易度を落とした復習課題を課する等の対応を取る。

令和 5 年度 前期 授業評価報告書	氏名	高柳 篤江
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

前年度の課題としてはマスク生活の中、より話が伝わるように話の組み立て方を丁寧に行う、というものであったが、学生はほぼ習得してくれた。また、「人前で話すことに慣れる」もほとんどの学生が達成できた。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

授業の項目をしぼり、繰り返すことで身につける。ミニレポートへのアドバイスを具体的にして次回のスピーチで達成感を得られるようにする。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

基本形は習得できるよう、折に触れて繰り返した。スピーチは楽しい雰囲気で行えるよう、発表順など工夫した。ミニレポートは学生の努力した点を取り上げ、次回へのアドバイスを理解しやすいよう書いた。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

スピーチが苦痛にならないことを第一に考えた。毎回人前で発表することで力がついていくことを実感してもらったと思う。授業内容によっては、次回にスピーチが回る学生が出るのは仕方のないことであるが、アンケートを見ると、時間の使い方を気にしている学生もいることがわかった。前の体育の授業の関係で授業開始が遅れたり、昼休みにかかったりすることもあったので、前もって説明をして理解を求めるようにしたい。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
スピーチコミュニケーション	23L	必修	20	83.6	6	30.0%	10	50.0%	4	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
スピーチコミュニケーション	23L	4.7	4.5	4.5	4.7	18.0分	4.6

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

授業の後、質問をしてくる学生には納得するまで応えた。ミニレポートに書いてくる場合も、できる限り丁寧に応えた。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

スピーチについてこれまでの取り組み方や、自分の傾向、感触など、学生が自分を見つめる時間を最初に取りようにする。スピーチにそれぞれが目標を持って取り組めたら、成長が早いと思う。クラスメイトのスピーチを聴くことでコミュニケーションの広がりも感じてほしい。授業項目は優先順位を意識したい。

令和 5 年度 前期 授業評価報告書	氏名	大安 貴佳子
--------------------	----	--------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

今年度より新たに講義をさせていただいた科目であったが、「子どもの健康と安全」と内容が重複する部分もあり、これまで講義で話してきた内容を繰り返したり、さらに詳しく踏み込んだりすることで理解を促すことを意識した。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- (1) ガイドライン、根拠に基づいた保育の在り方を学ぶ
- (2) 講義科目であるが、実践にも対応できるように意識を向ける

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

授業は毎回レジュメを配布し講義形式で行った。パワーポイントを用い、配布資料には空白を作り重要な項目を記入してもらった。ただパワーポイントに表示された内容を書き写すだけにならないよう、どこがポイントとなるのか、聞き手が分かるように説明しながら授業を進めた。また一方的に知識を教授するだけでなく、学生自身が考えて気づきを得られるような活動も行った。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

小テストでは成績に差が開く結果となったが、期末試験ではよい点数をとる学生が多く、関心をもって学習していると感ずることができた。子どもの保健の分野は医学の専門的な知識が必要とされ学生の関心や理解をどのように引き出すかが難しく、講義のレベル設定も悩む部分が多かったが、授業評価アンケートでも分かりやすかったとの意見も数件いただくことができたので次年度も参考に活かしていきたい。映像資料をとの意見もあり、今後取り入れてより分かりやすい講義づくりに励みたい。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子どもの保健	22Y	選択	85	85.7	35	40.7%	31	36.0%	14	16.3%	5	5.8%	0	0.0%	1	1.2%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
子どもの保健	22Y	4.4	4.4	4.3	4.3	50.3分	4.4

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

学生同士が話し合う場面もあったが、活発な話し合いとまではいかなかったように思う。メール等でいつでも質問を受け付けていたが、特に連絡はなかった。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- (1) 映像資料を取り入れ、より理解の深まる講義を行う。

令和 5 年度 前期 授業評価報告書	氏名	富永 君代
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

①小テスト(復習)の実施は明らかに学生の学ぶ意欲につながった
 ②ろうあ者の講義、コミュニケーション体験は自分の手話の実力、また実際に聞こえない人の事を理解するのに役立つのでコロナに注意しながら継続した

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

①手話の技術を高めコミュニケーション力を磨くための方法として小テスト、グループワークを取り入れる
 ②聞こえない障害をより理解できるように具体的な課題をだしグループで話し合いをする

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

①手話実技について小テストをすることで自分の実力の振り返りが出来るようになった
 ②毎回学生同士2~3名で手話だけの会話をとりいれた
 ③グループワーク時は机間巡回を講師がアドバイスをした。
 ④講師の手話が見やすい様に試験の時は移動をして表した

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

①試験の成績結果平均点は77点と高い方だと思うが成績の差(最高90点・最低60点)があり、学ぶ意欲が低い学生への支援が課題である。
 ②授業のすすめ方で不満を持つ学生がいたようなので途中で学生の声を聞く機会を設ければよかったと思った

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
手話講座	23L	必修	20	77.4	2	10.0%	6	30.0%	9	45.0%	3	15.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
手話講座	23L	4.4	4.3	4.7	4.3	41.7分	4.4

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

グループワークは課題解決方法として学生が積極的に取り組んでいる様子が見られた

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

この頃は障害をもつ学生もいるので繊細な障害者問題を扱う上で、講義内容や声かけなどに、より配慮が必要と思われる

令和 5 年度 前期 授業評価報告書	氏名	南條 恵
--------------------	----	------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

昨年度からの課題として、学生の理解に応じたわかりやすい授業の展開をおこなうこと、そのためにわかりやすいスライドや資料等の作成をあげていた。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

知識の定着がより図れるよう主体的な学びが求められるようなレジュメを工夫した。質問や意見が言いやすい雰囲気や時間を作り、授業の内容以外にもさまざまな方向から思考できるよう配慮した。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

学生の理解を細かにチェックすること、わかりやすい資料を作成すること、授業の後に振り返りをおこなうことを心がけた。
グループワークでの学修では、学生が主体的に活動できるような問いかけの作成、またグループが固定しないような工夫をおこなった。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

座学の場合は、学生の理解の状態が分かりにくい部分もあり、一人ひとりの要求に応じることが難しかった。毎回の授業の前後に教科書を読むなどの予習復習を求めているが、授業のみの学修となっている学生がほとんどだったので、より知識の習得に向けての工夫が必要であると感じた。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
乳児保育Ⅱ	22Y	選択	86	76.1	1	1.2%	26	30.2%	42	48.8%	17	19.8%	0	0.0%	0	0.0%
子ども家庭福祉	23Y	選択	72	77.0	9	12.3%	21	28.8%	30	41.1%	12	16.4%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
乳児保育Ⅱ	22Y	4.1	4.0	4.2	4.1	50.4分	4.1
子ども家庭福祉	23Y	4.1	3.9	4.5	4.0	31.3分	3.9

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

「どこが試験に出ますか？」のような質問が多く、学修の方法から説明する必要があった。非常勤ということもあり、一人ひとりの学生と丁寧に学生と向き合うことができなかった。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

学生の理解度に応じた授業の進め方について、より一層改善が必要のようなので、授業内容を精査していきたい。

令和 5 年度 前期 授業評価報告書	氏名	宮崎 美保
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

昨年度の授業評価報告書では、実技科目に対して意欲の低い学生やコミュニケーションをとるのが苦手な学生の対応を考え、さらに学生自ら考え動き楽しみながら向上していけるような授業を行うことが課題にあがっていた。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

(1) 学生が興味を持ち、やってみたいと意欲的に取り組める課題の出し方を工夫する。
 (2) グループ活動を増やし、協力してやる内容でコミュニケーションをとり、さらに学生自ら考え動き楽しみながら向上していけるように導く。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

(1) 実技科目活動内容をわかりやすく習得しやすくするために段階的項目をせっていた。さらに目標を各グループで決めて、目標達成するためにどうすればいいか工夫して活動するようにした。授業の終わりに自己評価するようにさせた。
 (2) 活動意欲が沸くような課題を出したり、特に苦手な実技科目に対して意欲の低い学生には、動きの分析をしてわかりやすい説明・実技指導をしながら、一緒に楽しみながら課題克服を目指した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

今年度は、生涯スポーツAと科目名が変わりシラバスの内容も多くのスポーツを実践する変更した。意欲的に楽しみながら取り組む学生が多く、実技を見せながら説明したり、動きの分析をすることによりスムーズに課題克服し、習得できていた。グループ活動を増やした結果、学生同士のコミュニケーションも上手にとることができ互いに教え合いながら習得をしていく姿も見ら自ら工夫して活動できるようになった。学習記録で目標を決めさせることでより活動意欲高まり、授業終わりに活動の振り返りをし自己反省をすることで次の授業の意欲につながった。1人1人にコメントを書くことでより良いアドバイスをすることもでき、学生ともさらにコミュニケーションが取れるようになった。アンケートの意見・感想の中に運動が苦手な学生が楽しくやれたとあり、授業改善・取り組みが少しずつ良い結果がでてきた。さらにアダプテーションゲームを取り入れて苦手な学生ももっと楽しめる工夫をした。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
生涯スポーツA	23S	選択	25	81.6	6	24.0%	7	28.0%	9	36.0%	3	12.0%	0	0.0%	0	0.0%
生涯スポーツA	23L	選択	9	87.7	5	55.6%	3	33.3%	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
生涯スポーツA	23S	4.6	4.6	4.6	4.6	12.7分	4.4
生涯スポーツA	23L	5.0	5.0	4.8	5.0	3.3分	4.6

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

学習記録をチェックすることで上手くコミュニケーションが取れないで困っていることに気づき、実技中もその学生が所属するグループを気がけて活動を見守ることができ声かけなどで導くことができた。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

(1) 学生自ら考え動き楽しみながら向上していけるように課題工夫してを授業を行う。
 (2) 意欲の低い学生やコミュニケーションをとるのが苦手な学生の対応を考える。
 (3) アダプテーションゲームを取り入れて実技をもっと楽しめるようにする。

令和 5 年度 前期 授業評価報告書	氏名	吉井 学
--------------------	----	------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

昨年度の授業評価報告書では学生の理解できるスピードで講義を行うことが課題にあった。また、話すスピードも遅くするよう課題に上がっていた。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

生化学では話すスピードを遅くする。質問はいつでも受けるようにする。
 毎回の授業において学生の理解度を改善する目的で講義の内容について質問や聞き取れなかった事柄について質問票を記載してもらい回収後、次回の授業で詳しい説明を行うように改善する。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

生化学では話すスピードを遅くし、質問を促す講義を行った。また、メールによる質問はいつでも受け付けるようにして学習機会を促した。
 公衆衛生学では2学科の合同であり、秘書課の学生においては初めての文言も多いと考えられるため教科書にある文言を詳細に説明しながら講義を進めた。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

授業ごとに記載してもらったQ&Aの効果が見受けられた。今後も継続するとともにメール等による質疑応答の機会を効率よく実施する。

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
公衆衛生学	22S	必修	24	72.9	3	12.5%	5	20.8%	4	16.7%	12	50.0%	0	0.0%	0	0.0%
生化学Ⅱ	22S	選択	24	75.7	7	29.2%	2	8.3%	5	20.8%	10	41.7%	0	0.0%	0	0.0%
公衆衛生学	22L	選択	8	63.8	0	0.0%	0	0.0%	2	25.0%	6	75.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度
公衆衛生学	22S	4.3	4.4	4.4	4.2	56.3分	4.3
生化学Ⅱ	22S	3.9	4.1	4.5	3.7	86.3分	4.0
公衆衛生学	22L	4.6	4.6	4.6	4.4	67.5分	4.5

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

メールを利用した質問に対して即刻返答することで学習意欲を高めるようにした。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

事前に教科書を読まない学生や科学用語に疎い学生のために授業後に補習による対応をする。

令和 5 年度 前期 授業評価報告書	氏名	吉田 高文
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

前年度の全体的な満足度は4.6、授業外学修時間も51.0分で、真面目に受講しているという印象であった。課題は、「学生の理解度」を高めることである。高校で簿記を学習した学生と普通科で簿記を学習してこなかった学生とでは、理解度に差が生じるので、まず基本的内容を十分に理解できるように反復学習をすすめ、同時に中級レベル（日商検定試験）の内容も意識した授業展開を行っていく。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

科目名「簿記会計学1」では、前年度に引き続き以下の4つの目標を掲げた。
 1. 複式簿記の構造を理解する。
 2. 簡単な財務諸表を作成できる。
 3. 商業簿記と工業簿記の違いを理解する。
 4. 日本商工会議所簿記検定試験3級の取得を目指す。
 また、引き続き授業外学修ができるように、教員が開発したマイクロラーニング教材を提供した。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

科目名「簿記会計学1」では、日商簿記検定試験3級の内容理解を進める授業を行った。また、2級の内容である工業簿記や原価計算の基礎についても説明した。具体的な活動内容は以下の通りである。まず説明プリントと練習問題のプリントを配布し、必要なつど電卓を貸し出して計算させながら授業を進めた。練習問題のプリントは毎授業後回収し、理解度を確認後、翌週に一部添削して返却した。さらに、欠席した学生には、次週にプリントを配布して理解度を確認させながら授業を進めた。また、マイクロラーニング教材として「10分でわかる

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

前年度に比べて、学生の理解度や全体的な満足度が低下した。評価の平均点も下がっていて、一部の学生にはむしろかしい授業ととらえられていたようである。今年度は、すでに日本商工会議所簿記検定試験2級を取得していた学生をはじめ、高校で簿記を学習した学生が35%いた。その学生たちがS評価やA評価となっている。一方、B評価やC評価の学生の中には、結果的についてこれなかった学生が出た。こうした簿記の既習者と初習者との学修格差は、以前から存在していたが、今年度はとくにその差が大きかったようである。この格差を受け入れながら、どのように授業を進めていくか工夫しなければならない。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
簿記会計学1	23L	必修	20	84.1	7	35.0%	7	35.0%	4	20.0%	2	10.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
簿記会計学1	23L	3.6	3.8	4.3	3.5	57.0分	3.6

*...学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

前年度に引き続き、科目名「簿記会計学1」では、教員による一方的な講義ではなく、学生に電卓で計算しながら問題を解かせるように進めた。
 オフィスアワーについては、規程どおり設けて、授業終了後の教室や非常勤講師控室で学生からの質問を受け付けた。とくに期末試験直前の質問が多かった。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

科目名「簿記会計学1」では、学習水準を維持しながら学生の理解度を高める上で以下の3点を次年度の目標とする。
 (1) 今年度に引き続き、科目名「簿記会計学I」では日本商工会議所簿記検定試験3級の受検を念頭に置きながら授業を進めていく。
 (2) 高校で商業を学んだ学生と普通科の学生とでは、学習開始時点ですでに差がついている。そこで、教材をより一層工夫しながら、既習者と初習者のそれぞれに満足できるような授業を目指す。
 (3) マイクロラーニング教材「10分でわかる